

# 青森県獣医師会報

No.205

2026

## 目 次

### 〔新年のご挨拶〕

公益社団法人 青森県獣医師会	小山田富弥…1
……………会長	田中 慎一…3
青森県農林水産部畜産課……………課長	
青森県健康医療福祉部保健衛生課	田中 純…4
……………課長	松坂千亜紀…5
青森県動物愛護センター……………所長	岡野 昇三…6
北里大学獣医学部……………学部長	
令和7年秋の叙勲・褒賞について	……………事務局…7

### 〔資料〕

令和7年度東北地区獣医師大会	……………事務局…8
公益社団法人日本獣医師会に対する要望事項	……………青森県獣医師会、山形県獣医師会…13
令和7年度獣医学術東北地区学会	
日本産業動物獣医学会の概要	……………林 敏展（中央家畜保健衛生所）…15
日本小動物獣医学会の概要	……………竹原 律郎（ふれあい動物病院院長）…17
日本獣医公衆衛生学会の概要	……………宮村 尚道（青森県食肉衛生検査所）…19
全国食鳥指定検査機関情報連絡会議研究発表演題	
暑熱が食鳥検査成績に及ぼす影響とその対策	（公社）青森県獣医師会食鳥検査センター
……………松本 敦 他…20	

### 採用用成鶏でみられた胆管肝炎

（公社）青森県獣医師会食鳥検査センター	……………赤沼 保 他…23
---------------------	----------------

### 「2025動物感謝デー in JAPAN

“World Veterinary Day”が開催されました	……………事務局…25
--------------------------------	-------------

### 3 師会と日本獣医師会との比較（2）

～組織率の向上を目指して～	……………事務局…26
---------------	-------------

### イベントリニューアルを通して見えた

ペンギンの健康へのヒント	……………青森県営浅虫水族館 加藤 愛…33
--------------	------------------------

### 〔臨床ノート〕

287号 性分化疾患が疑われる犬の一例……………36	
288号 ホルモン測定により繁殖診断を行った	
小型馬の2例について……………38	

### 〔会員だより〕

令和7年度青森県獣医師会ゴルフコンペの	
結果について ～ 南 勲さん優勝！ ～	……………青森支部 沼宮内春雄…40
子供達の料理チャレンジ記録	……………食いしん坊かあちゃん…41

### 〔事務局だより〕……………43

### 〔編集後記〕……………45



令和8年1月1日

公益社団法人 青森県獣医師会

# 第41回世界獣医師会大会

## 2026

41st World Veterinary Association Congress  
TOKYO, JAPAN 21-24 April 2026



## ワンヘルスで世界の獣医療が示す未来

### 開催概要

- 日程：2026年4月21日(火)～24日(金)
- 会場：東京国際フォーラム
- 主催：世界獣医師会（WVA）・公益社団法人日本獣医師会

### 主なプログラム Program

テーマを踏まえた多彩で魅力的なプログラムを予定

- |              |                     |
|--------------|---------------------|
| ・開会式         | ・WVA アニマルウェルフェアセミナー |
| ・WVA 総会      | ・WVA 獣医学教育セミナー      |
| ・ウェルカムレセプション | ・オフィシャルディナー         |
| ・ワンヘルスサミット   | ・閉会式                |

### 東京国際フォーラムへのアクセス Access



ホームページは  
こちら



【連絡先】WVAC2026 事務局：wvac2026-reg@convention.co.jp



## 新年のご挨拶

公益社団法人 青森県獣医師会

会 長 小山田 富 弥

謹んで初春のお慶びを申し上げます。

会員の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、全国各地で豪雨災害が相次ぎ、クマの出没による人身被害の対応に自衛隊が出動するなど自然の猛威と向き合う年となりました。また、トランプ関税や原材料価格の高騰による物価上昇も国民の生活に大きな影響を及ぼしました。こうした中、憲政史上初の女性総理大臣が誕生し、物価対策や安全保障の取組が進められています。国外では、長期化するウクライナ戦争に加え、年末には台湾有事に関する発言により、中国による経済的・軍事的威圧も強まるなど国際情勢は緊迫しています。

今年は丙午（ひのえうま）にあたり、情熱的で強い意志を持ちながらも、激しさや変化を伴う年とされています。また、本年は急速に発展する我々の獣医師会において、重要な節目の年となります。日本獣医師会の藏内会長が本年4月に世界獣医師会会長に就任し、4月21日から24日の4日間、31年ぶりに東京国際フォーラムにおいて「第41回世界獣医師会大会」が開催されます。本会としても、より多くの会員が大会に参加できるよう、参加費の助成を行ったところです。

次に、本会の社会貢献事業である狂犬病予防注射事業についてご報告いたします。昨年9月末時点の接種頭数は31,462頭で対前年比96%の接種率で1,985頭の減少となりましたが、現状では最大限の成果であると考えております。接種率向上のため、啓発活動や集合注射日程の調整など、連綿たるご尽力をいただいた会員、市町村担当者の皆様、青森県動物愛護センターの方々に深く敬意を表します。しかしながら、以前から法に基づく登録頭数と実際の飼養頭数に乖離があることが指摘されています。本県の実態は明らかではありませんが、一般社団法人ペットフード協会が試算している全国飼養頭数から概ね6,000頭以上の犬が登録されていないものと推測されます。こうした未登録犬を解決するためには、全ての飼養犬へマイクロチップを装着するよう動物愛護管理法を整備する必要があります。今後も日本獣医師会と連携し、活動を継続してまいります。

平成6年から獣医療法第17条に基づく広告制限の特例措置が始まっています。

特例措置として、日本獣医師会、日本産業動物獣医学会は、生産段階から流通・消費までを把握し行政と連携の上、“安全・安心”な畜産物を提供するため農場管理認定獣医師制度を設け、現在、すでに7人の獣医師が認定されています。本会といたしましても、国民がより高水準の獣医療の恩恵を受けられる社会の実現に向けて、本制度を推進します。

家畜伝染病の発生状況ですが、国内における豚熱（CSF）は依然として終息には至っておらず、引き続きまん

延防止対策が必要な状態が続いています。加えて、台湾においてアフリカ豚熱（ASF）が確認され、国内侵入への警戒体制が強化されています。また、高病原性鳥インフルエンザは、昨年すでに発生しており、今後、国は防疫を強化するため、農場が密集する地域を指定し、生産者同士が消毒剤の備蓄や野鳥対策強化に協力しやすい体制を整えることとしています。本会といたしましても「飼養衛生管理基準」のさらなる浸透を図るとともに、生産者の皆様への適正な指導を通じ、家畜衛生対策に協力することとしています。

食鳥検査事業については、令和7年度の検査羽数は昨年と同様に約6,500万羽前後となることを見込まれています。独立行政法人農業産業振興機構は、健康志向の高まりを背景に、外食や中食における食鳥肉の需要が増加傾向にあり、消費が拡大すると予測しています。また、本年11月には八戸市に食鳥処理場が新築移転される予定であり、処理羽数の増加も見込まれます。このような中、食鳥検査に携わる本会の獣医師は、気を緩めることなく家畜伝染病発生時の対応を強化するとともに、食鳥肉に起因する危害の防止と検査技術の高度平準化に努めてまいります。

農林水産省は、「獣医師法第22条」に基づき、令和6年12月31日現在の状況を公表しました。県内の獣医師届出状況は、10年前の平成26年546人から約10%減少しており、その多くは県職員獣医師によるものです。令和7年度から青森県では獣医師職員の不足解消に向けて初任給調整手当を70,000円に増額するなどの対策を講じています。しかし、調整手当は、他の自治体においても同レベルとなることが想定されます。そのため、公務員獣医師の安定的な確保には、給料表の改訂など、より踏み込んだ対策が必要です。今後とも機会ある度に処遇・待遇改善を関係者に訴えて参ります。

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）などの新興・再興人獣共通感染症や薬剤耐性菌問題などに対応するためには、「人の健康」「動物の健康」「環境の健全性」を包括的に守っていくOne Healthの考え方が重要です。徐々にではありますが、人と動物が共存する豊かで成熟した社会の発展と地域創生を図る上で、組織団体である獣医師会への期待が高まっています。また、今年は、“青の煌めきあおもり国スポ・障スポ”が開催されます。本会は、リージョナルスポンサーとして支援し、山梨県で開催される馬術競技に協力しています。

会員の皆様には、今後とも獣医師会の運営に対し、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新しい年が会員お一人おひとりにとって充実した幸多き年となりますことを心より祈念申し上げ、年頭に当たってのご挨拶とします。







## 新年の御挨拶

青森県農林水産部畜産課

課 長 田 中 慎 一

明けましておめでとうございます。

小山田会長をはじめ会員の皆様におかれましては、希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、公益社団法人青森県獣医師会におかれましては、日頃から本県の家畜衛生業務を通じた畜産振興のほか、食鳥検査などの公衆衛生の向上、動物福祉に御尽力いただき、深く感謝申し上げます。

さて、近年の畜産業は、子牛価格は持ち直しつつありますが、依然として続く飼料価格の高止まりによる生産コストの上昇などにより、厳しい経済状況が続いています。

一方、家畜衛生分野では、昨年4月、熊本県及び北海道において国内で17年ぶりとなる馬インフルエンザが発生し、競馬や馬術大会の開催が中止になりました。

また、昨年10月、台湾でアフリカ豚熱の発生が初めて確認され、東アジア地域での非発生国は我が国のみとなっている状況です。また、豚熱については、昨年も群馬県と千葉県で発生しており、本県では養豚場での発生はありませんが、野生イノシシにおいて、三戸町や階上町等県南地域で9事例の感染が認められています。このため、県では、昨年から本県を訪れるクルーズ船や国内線の乗客を対象とした靴底消毒を開始し、水際対策を強化した他、すべての養豚場に対して、飼養衛生管理基準巡回指導や豚熱ワクチンの接種適期の見直しを実施しています。また、野生イノシシへの対策についても豚熱経口ワクチンの散布を17市町村に拡充し、発生防止対策を強化しています。

高病原性鳥インフルエンザについては、本県では令和4年度の発生以降、養鶏場での発生はありませんが、今年度も10月の北海道を初発に発生が確認されていることから、日頃から、飼養衛生管理基準の遵守などによる発生防止対策の徹底と、発生した場合には、国の防疫指針等に基づく、的確な防疫対応が求められています。

このような中、県では過去の発生における防疫対応を検証し、負担の大きかった防疫資材の保管・運搬や消毒ポイントの作業等について、迅速性も加味し、令和5年11月に民間事業者にアウトソーシングすることで、防疫体制を強化しました。さらに、令和7年9月には防疫作業の進捗状況や動員、防疫資材の在庫管理・追加発注等の情報を一元管理し、リアルタイムで把握・共有し、効率的で的確な防疫措置を実施するため、我が国初となる「特定家畜伝染病防疫情報管理システム」を開発し、防疫体制のレベルアップを図りました。

また、県では、令和3年度に策定した第2期の青森県獣医師確保プランに基づき、減少傾向にある公務員獣医師の確保・定着に向けて取り組んでいるところです。具体的には、小中学校、高校への出前講座や公務員獣医師を志す高校生への修学資金制度の拡充に加え、学校法人北里研究所との協定により、インターンシップの受入れによる本県への就業の働きかけや、獣医師職員のスキルアップ研修を充実させ、獣医師職員の業務への理解醸成を図っています。

さらに、獣医師職員への初任給調整手当を全国トップクラスに引き上げた他、家畜保健衛生所の建て替えにより、処遇改善や働きやすい職場環境の整備を進めています。

畜産業は、県内産出額の約3割を占める本県の基幹産業であり、さらなる発展を図るためには、貴会会員の豊富な知識・経験や日々培っておられる高度な技術の役割がより一層重要になっておりますので、引き続き、本県の家畜衛生の推進と畜産業の発展に御尽力くださることをお願い申し上げます。

結びに、貴会のますますの御発展と、会員の皆様の御活躍を心からお祈り申し上げ、新年の御挨拶といたします。



## 新年のご挨拶

青森県健康医療福祉部保健衛生課

課 長 田 中 純

公益社団法人青森県獣医師会の会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては健康やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃から本県の食肉衛生行政、動物愛護管理行政、感染症対策行政及び食品衛生行政の推進に格別の御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

食肉衛生行政につきましては、県内各と畜場及び食鳥処理場においてHACCPに基づく衛生管理が実施されているところであり、県では、これらの取組を検証し、指導助言を行うことで、食肉及び食鳥肉のより一層の安全の確保に努めているところです。また、昨年5月に国から認定を受けた本県内初の対米等向け輸出食肉取扱施設に対しても、国から指名を受けた検査員がと畜検査や監視指導を行い、輸出相手国から求められる衛生管理及び作業衛生水準の確保に努めています。

国内では、豚熱や高病原性鳥インフルエンザをはじめとする家畜伝染病が脅威となっており、食肉、食鳥肉の安全の確保には、HACCPの適切な実施に加え厳正なと畜検査及び食鳥検査がますます重要となっています。貴会におかれましては、引き続き食鳥検査員の確保や食鳥検査センター機能の維持・強化等に努められ、最新の知見等に基づいた厳正な食鳥検査を実施くださるとともに、食鳥処理場への衛生指導にも御協力くださるようお願いいたします。

動物愛護管理行政につきましては、青森県動物愛護センターを拠点として、貴会に御協力をいただきながら広く県民に対する動物愛護の思想と適正飼養の普及に取り組んできました。しかしながら、近年では、いわゆる多頭飼育崩壊の状態へ陥り、地域の問題に発展する事例が増加傾向にあります。県では、この問題を人と地域と動物の問題としてとらえ、貴会をはじめ、市町村担当者、社会福祉関係者、動物愛護ボランティア等と多機関連携を構築するための研修会や地域における勉強会を開催し、こうした問題の早期発見・解決に向けた仕組みづくりに取り組んでいるところです。県としては、引き続き、貴会と連携して、様々な課題に取り組み、人と動物が共生できる社会の実現を目指して参りますので、御理解と御協力をお願いします。

感染症対策行政につきましては、先の新型コロナウイルス感染症対応で得た経験を、次の感染症危機への対策に活かしていくことが重要であると考えています。狂犬病をはじめ、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）等の人獣共通感染症に関する注意喚起や薬剤耐性菌対策など感染症対策において獣医師の果たす役割はますます重要性を増しているところであり、今後も、「ワン・ヘルス」の考え方で次なる感染症危機に備えた体制整備に努めて参りますので、御理解と御協力をお願いします。

さて、今年は本県においてあすなろ国体以来49年ぶりとなる国民スポーツ大会、本県では初めてとなる全国障害者スポーツ大会が開催されます。県では、青森らしさあふれる素晴らしい大会となるよう取り組んでいきますので、会員の皆様にも一体となってこの大会を盛り上げていただきますようお願いいたします。

結びに、本年が会員の皆様にとって、幸多き一年になりますよう、ますますの御発展を御祈念申し上げ、新年の御挨拶といたします。



## 新年のごあいさつ

青森県動物愛護センター

所 長 松 坂 千亜紀

公益社団法人青森県獣医師会会員の皆さま、あけましておめでとうございます。

会員の皆さまにおかれましては、希望に満ちた輝かしい年をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、日ごろから当センターにおける動物愛護管理行政の推進に格別の御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、狂犬病予防対策につきましては、集合注射会場への獣医師派遣及び動物病院における個別接種等に御尽力を賜っておりますことに厚くお礼申し上げます。お陰様で本県の狂犬病予防注射接種率は、令和6年度で85.4%と高い水準を維持することができました。これもひとえに会員の皆さまのお陰と感謝しております。今後とも引き続き皆さまの御協力をお願いいたします。

動物の多頭飼育崩壊はしばしば報道などで大きく取り上げられており、本県においても犬猫の多頭飼育問題に関する相談が年々増加しています。多頭飼育問題は、動物の飼育環境の悪化だけでなく、飼い主の生活の質の低下や、悪臭・衛生問題など近隣への迷惑をもたらし、人と地域の問題に広がることとなります。その背景には飼い主の生活困窮等の問題があるとされており、動物への対処のみならず飼い主の支援が必要であることから、本県では昨年度から社会福祉部門等の関係機関と連携体制を構築するための取組みを行うとともに、令和5年度から開始した多頭飼育問題に係る犬猫の不妊去勢手術支援事業を貴会の御協力のもと、青森県動物愛護協会と連携して実施しています。

また、動物の多頭飼育では、管理が行き届かず栄養不良や適切なケアを受けていない個体が確認される場合があります。ネグレクト（動物虐待）が疑われる事案も発生しています。

昨年度、県内の元ブリーダーによる動物虐待について動物愛護管理法違反として罰金刑が確定した事案が発生しましたが、こうした事案に対して捜査機関と連携した対応がとれるようになってきていると感じています。

動物虐待等事案の対象はペットのみならず、展示動物、家畜、実験動物等も含まれますので、動物に関わる業務に携わる会員の皆さまにおかれましては、虐待を受けたと思われる動物を発見した際には当センター等にご連絡くださるようお願いいたします。

今後も狂犬病予防対策に加え、動物愛護管理推進計画に基づく取組みを一層推進して致死処分削減を図るとともに、YouTubeやInstagramを活用して情報発信し、「人と動物が共生し、健やかで安心して暮らせる社会の実現」を目指して参る所存ですので、引き続き、会員の皆さまの御支援、御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに本年が会員の皆さまにとりまして、幸多く笑顔の年となりますよう祈念申し上げ、新年のごあいさついたします。



## 新年のご挨拶

北里大学獣医学部

学部長 岡 野 昇 三

青森県獣医師会会員の皆様、あけましておめでとうございます。皆様がお健やかに新しい年を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、私たち獣医師に求められる社会的役割はますます広がり、その重要性が改めて認識された一年でありました。畜産分野では安全で持続可能な食料供給体制の確保が求められ、公衆衛生分野では高病原性鳥インフルエンザなど人獣共通感染症への対応が継続して求められました。また、伴侶動物医療においては診療の高度化や愛玩動物看護師制度の定着が進み、チーム獣医療のさらなる発展が期待されています。

こうした中、北里大学では本年3月に大動物診療センターが完成予定であり、地域の産業動物医療と教育研究の基盤が大きく強化される見込みです。さらに北里大学獣医学部は開設60周年を迎える節目の年でもあります。これまで多くの獣医師を全国へ送り出し、地域獣医療の発展に寄与できたのは、ひとえに青森県獣医師会の皆様の支えがあつてのことであり、心より感謝申し上げます。

また、チーム獣医療の基盤を支える人材育成の強化として、本年4月より動物資源科学科において愛玩動物看護師国家試験に対応した新カリキュラムがスタートいたします。より高度で実践的な教育を提供し、社会の期待に応えられる専門職の育成に努めてまいります。

一方で、公務員獣医師をはじめとする各分野での獣医師不足は依然として課題となっております。この状況に対応するため、北里大学では「青森県と学校法人北里研究所との人材育成に関する協定」に基づき、地域と連携しながら教育の充実と人材育成・確保を進めております。

さらに、本年4月には世界獣医師会大会（WVA）と獣医学術年次大会が同時開催され、国際的な視点から獣医療の未来やワンヘルスの理念が議論される貴重な機会となります。地域獣医療に還元すべき多くの知見が得られるものと期待しております。

結びに、2026年が青森県獣医師会会員の皆様ならびにご家族の皆様にとって、健康で実り多い一年となりますよう心より祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



# 令和7年秋の叙勲・褒賞について

## 事務局

令和7年秋の叙勲・褒賞受賞者が国、青森県、十和田市から発表され、本会から2名の方が表彰されましたので、皆様にお知らせします。

### ○ 旭日小授章並びに十和田市褒賞 小山田 久 氏

青森県獣医師会会員である前青森県十和田市長の小山田 久先生が旭日小綬章を受章されました。心よりお祝い申し上げます。

小山田先生は北里大学畜産学部獣医学科を卒業後、青森県庁職員として農林水産部で畜産の基盤整備と振興のため活躍され、退職後も県畜産協会において畜産業の発展に尽力されました。その後、平成21年から令和6年までの16年間にわたり十和田市長として市政を担い、4期にわたって市民の信頼を集めてきました。

市長在任中は、観光資源の活用や地域医療の充実、子育て支援の強化、企業誘致など、多岐にわたる分野で積極的な施策を展開され、十和田市の発展に大きく貢献しました。また、十和田湖や奥入瀬溪流といった自然の魅力を活かしたまちづくりにも力を注ぎ、国内外からの観光客誘致にも成果を上げられました。

旭日小綬章の受章と十和田市褒賞は、こうした長年の功績が広く認められた証であり、私たち獣医師会会員にとっても誇らしい出来事です。温厚で誠実なお人柄と、地域を思う強い情熱に敬意を表するとともに、今後、青森県畜産協会会長としてますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

### ○ 青森県褒賞 小山田 富 弥 氏

公益社団法人青森県獣医師会 小山田 富弥 会長が令和7年秋の青森県褒賞を受賞しました。

会長は、北里大学畜産学部獣医学科大学院修士課程を卒業後、十和田市にて開業し、産業動物及び小動物の診療に従事しています。地域に根ざした獣医療を実践される中で、畜産業の振興にも多大なる尽力をして地域で活躍しています。

平成29年6月には青森県獣医師会の会長に就任し、県内の獣医療、家畜防疫、公衆衛生及び動物愛護の発展に貢献しています。

また、令和元年から令和5年まで日本獣医師会の監事を務め、令和5年からは東北地区の理事として、全国規模で獣医師会の運営に深く関わるとともに、「ワンヘルス」の理念のもと、人と動物、環境の健康を一体として捉える取り組みを積極的に推進しています。

常に冷静で穏やかな人柄は、多くの方々から厚い信頼を集めており、これまでの農業振興・発展への功績に対して深く敬意を表します。



## 令和7年度 東北地区獣医師大会

事務局

令和7年10月8日（水）、秋田キャッスルホテルにて令和7年度 東北地区獣医師大会が盛大に執り行われました。大会参加者数は278名で、本県からは15名の会員が参加しました。



秋田キャッスルホテル外観

午後1時から式典が始まり、大会長の秋田県獣医師会の砂原会長、日本獣医師会の鳥海副会長の挨拶に続き、令和6年度の獣医学術東北地区学会賞5演題及び東北獣医師会連合会長賞3演題に対する褒賞授与式が執り行われました。



本県の大会役員  
小山田会長、妻神副会長、豊澤副会長

## 1 大会長挨拶（砂原秋田県獣医師会長）

世界的に感染が拡大し社会的影響を及ぼした新型コロナウイルス感染症は、大勢の人が必要な対応を行った上で共存する社会になってきました。

また、人と動物の健康及び環境保全を一体的に進めるワンヘルスのアプローチの重要性は広く理解されるようになりました。最近では、SFTS（重症熱性血小板減少症候群）による犬猫の感染はもとより、人の感染患者への対応など改めて人獣共通感染症に取り組む必要を感じています。



## 2 日本獣医師会長挨拶（鳥海副会長 代読）

来年4月21日から24日まで東京国際フォーラムにて開催する第41回世界獣医師会東京大会では、先進的かつ充実したプログラムを準備しています。海外の現状を肌で感じ、国境を越えたワンヘルスの実践活動の更なる推進を図るためにも御支援と御参加をお願いします。



国内の課題である販売用犬猫のマイクロチップの装着・登録については、本制度の適正な運用及び責



大会役員

務を公的に明確にし、獣医師の登録情報の全面的な検索を可能にするため動物愛護管理法の一部改正を強く要請してきたところです。

一方、現在取り組んでいる狂犬病予防法に基づく自治体のDX化については、より確実な登録手数料の徴収に加え、将来的にはワクチン接種の情報も一体的に運用することを見込んでいます。日本獣医師会は国民のニーズに応えるとともに会員にとっても有用な事業となるよう尽力して参ります。

家畜の伝染病については、豚熱及び鳥インフルエンザ、並びに昨年11月に発生した国内初のランピースキン病が発生している中で、今年1月に開催した年次大会において第1回認定資格試験を実施し、農場管理認定獣医師が誕生しました。農場の飼養衛生及び経営管理等全般を管理する体制を構築し、我が国の家畜防疫支援の強化に努めたいと考えています。

その他、獣医師と愛玩動物看護師によるチーム獣医療の推進、公務員獣医師や産業動物獣医師の処遇改善と人材確保、犬の飼育率向上による動物と暮らす豊かな社会生活の維持などの国内対策や、アジア地域の獣医師の研修事業を通じた国際貢献など本会の取り組むべき課題は山積しています。これらの課題を解決するためにも地方獣医師会及び会員の皆様の御理解・御協力をお願いします。

### 3 学会褒賞表彰

令和6年度の獣医学術東北地区学会長賞（産業動物及び小動物が各2題、公衆衛生が1題）及び連合会長賞（産業動物、小動物及び公衆衛生が各1題）の受賞者に表彰状等が授与されました。



獣医学術東北地区学会長賞の授賞者



東北獣医師会連合会会長賞の受賞者

### 4 来賓祝辞

来賓として農林水産省消費・安全局長、環境省自然環境局長、厚生労働省健康・生活衛生局長（以上、代理出席）から祝辞をいただきました。



来 賓

#### (1) 農林水産省消費・安全局長

（畜水産安全管理課 岩田課長補佐 代読）

最近の獣医師・獣医療分野では、獣医師会と行政が一体となって取り組むべき重要な課題があります。まずは地域の産業動物臨床及び家畜衛生に従事する産業動物獣医師の育成の強化です。畜産物の安全供給や畜産業の発展においては、産業動物獣医師の役割は欠かせないものですが、地域によって従事者数の状況に差があると認識しています。今年4月に閣議決定された食料農業農村基本計画においても薬剤耐性対策の推進とともに、獣医療提供体制の整備の必要性について明記されたところです。また、高病原性鳥インフルエンザや豚熱、アフリカ豚熱などの家畜伝染病の国内での発生リスクは依然として高く、引き続き飼養衛生管理基準の徹底を始めとした発生予防及びまん延防止のために、的確かつ迅速な対応において獣医師が大きな役割を担っており、今後も連携して取り組む必要があります。

小動物獣医療分野については、令和4年5月に愛

玩動物看護師法が施行され、現在、約26,000人の愛玩動物看護師が活躍しています。多くの家庭で犬や猫などの愛玩動物は家族の一員としてかけがえのない存在となっており、愛玩動物獣医療が高度化及び多様化するなかで、獣医師と愛玩動物看護師との連携による適正なチーム獣医療の確保が求められています。

## (2) 環境省自然環境局長

(東北地方管理事務所 濱名次長 代読)

昨年の能登半島地震では、日本獣医師会及び各地方獣医師会の獣医師の皆様にご多大なる御支援をいただきとともに、災害時の対応を含め地域の獣医師の存在が大変重要であることを改めて実感しました。マイクロチップについては、環境省へ登録された犬猫の数は既に200万頭を超えています。災害時を含め犬猫の返還に活用されており、これも現場の獣医師が長年にわたりマイクロチップの普及に大変な御尽力をいただいた成果であり、この場を借りて御礼申し上げます。

## (3) 厚生労働省健康・生活衛生局長

(食品監視安全課輸入食品安全対策室

福島室長 代読)

厚生労働省では、人獣共通感染症や薬剤耐性(AMR)対策などワンヘルスアプローチを推進しており、次の感染症危機に備え、昨年7月に全面改正された新型インフルエンザ等対策政府行動計画においてもパンデミックを予防するために、ワンヘルスアプローチに基づく人獣共通感染症対策を記載し、取組強化の重要性を示しています。また、人獣共通感染症対策の一環として、狂犬病予防関連の手続きのデジタル化の推進は重要と考えており、厚生労働省としては、日本獣医師会をはじめ関連各省と連携して取り組んでいきます。

食品分野については、食肉や食鳥肉の安全確保に必要な検査業務、食品の営業許可施設の監視指導など食品衛生行政において獣医師の活躍なくして食品安全は成り立たず、皆様の御協力が不可欠です。厚

生労働省としては、食肉や食鳥肉の安全確保に携わる獣医師の重要性を強調しつつ、食の安全確保に取り組んでいきます。

さらに現在、政府一体となって農林水産物及び食品の海外輸出を推進しており、特に牛肉等の食肉は重要品目と位置付けていることから、これまで以上に輸出される牛肉等の安全性確保に取り組んでいきます。

続いて秋田県副知事及び秋田市長から祝辞をいただきました。(挨拶省略)

## 5 議 事

議長に秋田県獣医師会の佐藤副会長が指名され、日本獣医師会に対する要望事項が審議されました。

要望として、青森県獣医師会の豊澤副会長から「獣医師会の組織率向上に向けた対策について」、山形県獣医師会の足達副会長から「狂犬病予防法施行規則に規定される予防注射時期の通年化に反対します」が提案されました。

議長は、出席者に意見を求め、提案事項の提出について諮ったところ満場一致で承認されました。

(要望事項全文については、本稿13～14ページに記載しています。)



提 案 者



## 6 市民公開特別講演

演題：災害時ペットを守るために

～鍛えよう！飼い主力と防災力～

講師：特定非営利活動法人ANICE（アナイス）

代表 平井潤子 先生



日本は自然災害が多い国であり、災害による被害を減らすためにも防災意識を高め日頃から備えることや、ペットを守るためにも飼い主が平時から準備を整え避難所対策を考えておくことが重要である。今回は日本各地の災害現場で実際に起きた飼い主とペットをめぐるトラブルや、工夫によって困難を乗り越えた事例を紹介するので、これらを参考に災害を生き抜き家族を守るための「防災力」、並びにペットを守り被災地で社会に迷惑をかけないように適切に管理する「飼い主力」を高め社会全体で取り組むことが重要である。

家族の一員であるペットの避難対策は災害の経験を経て変化しており、ペットにとって安全な場所は、そこに住む人にとっても安全であることをチェックしてみる必要がある。具体的には、万が一、はぐれてしまった時に飼い主が分かるよう犬猫にマイクロチップや迷子札を装着しておくこと、ケージなどに入る機会が多くなるので災害時に役立つハウストレーニングを行っていくこと等である。

## 7 獣医事講演

演題：我が国の獣医師をめぐる現状

～獣医師に求められる倫理観や

最近の獣医療体制について～

講師：農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課

課長補佐 岩田 啓 先生



獣医師届け出のデータによると、産業動物診療の獣医師は畜産が盛んな北海道や九州に多く、小動物診療の獣医師は大都市圏の関東、中部、近畿に多く分布している。一方、公務員分野をみると、農林水産関係の獣医師は産業動物診療と同じく北海道や九州に多く分布し、公衆衛生関係の獣医師は畜産が盛んな地域に加え、政令市などの採用もあることから大都市圏にも多く分布している。いずれにしても獣医師の分布は地域によってかなり差がある。

ここ10年間の獣医師数の推移は4万人前後で横ばいであり、分野別では小動物が一番多く増加傾向であり、産業動物が横ばいからやや減少傾向である。

獣医学科がある全国17大学を卒業した学生の就職先をみると、5割近くが小動物へ勤務している。現在大学に在籍している学生の6割が女性で、獣医師全体では1/3が女性であり、そのうち20歳代では6割近くが女性である。10年後には勤労者の男女比は1対1になると予想されており、このため、男性を含めた育児休業の取得など働きやすい職場が求められると考えている。

産業動物分野の獣医師確保計画が都道府県ごとに策定され、5年経過したことから診療困難を抱えているかどうかのアンケート調査を最近実施した。その結果、産業動物獣医師については16県で、家畜衛生公務員獣医師については一部の府県を除くほぼ全てで診療体制の困難を抱えているとの回答であった。原因としては、家畜伝染病関係業務が多くなり、そのため一人当たりの業務量が増え、農家への振興業務の支援ができなくなり、結果として仕事のやりがい低下し、離職につながり、採用ができないという悪循環になってきているとのことであった。農林

水産省としては、リクルートの強化、電子化による業務の効率化、待遇改善、研修充実化などの取組を考え、インターンシップへの支援、修学資金への支援、定着・技術向上研修、遠隔診療の導入などを予算化し対応していくこととしている。

獣医師に求められる倫理観については図1に示すとおり、獣医師法以外に薬機法（医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律）、家畜法、食品安全基本法、動愛法など多くの法律が関係し、それぞれ獣医師の利権もあれば義務もある。

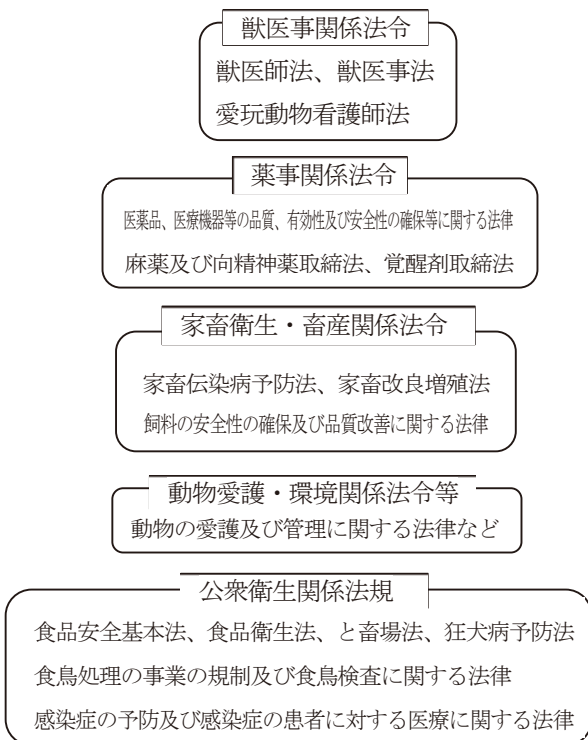


図 1

獣医師法8条には獣医師免許の取り消し及び業務の停止の規定があり、罰金刑以上に処される又は獣医師道に反する重大な違反行為に対する処分規定がある。

代表的な処分事例は次のとおり、

- ① 診療せずにフィラリア予防薬を販売した事例
- ② 獣医師でないものに診療業務を行わせた事例
- ③ 高病原性鳥インフルの疑似患者の発見を届け出ず、家畜防疫員からの血液採取を求められた際に他の農場の血液を提出した事例
- ④ 家畜人工授精用の精液の数と証明書の数の齟

齟に対する指摘に対し虚偽の報告をしたなどがあった事例

- ⑤ 動物病院経営者が届け出をせず、ブリーダーにマイクロチップを横流ししていた事例

特に近年多い事例が交通事故や盗撮などであり、獣医師は様々な法令が関与するので高い倫理観が求められていることを認識しなければならない。

最近、農林水産省にも愛玩動物飼育者からの問い合わせの電話があり、不十分なインフォームドコンセントに対する苦情が多くなったと感じている。例えば、獣医師からの治療方針や副作用の説明がないまま受けた手術でペットのウサギが死んだとして獣医師、先生を訴え、説明義務違反で損害賠償金66万円の支払いを命じた事例もある。また、飼育者との不十分なコミュニケーションによるトラブルも多く、こんな獣医師を野放しにしてよいのかなどの意見も寄せられている。

## 8 交流会

秋田県獣医師会の砂原会長、日本獣医師会の鳥海副会長の挨拶に続き、日本獣医師連盟委員長代行の中川氏の乾杯で開演となりました。（参加者132名）

余興では、明治時代から秋田市内の街の賑わいを支えてきた伝統の“あきた舞妓”の踊りが披露され、素晴らしい文化を堪能することができました。



舞妓と一緒に記念撮影



# 令和7年度東北地区獣医師大会 「公益社団法人日本獣医師会に対する要望事項」

## （１）獣医師会の組織率向上に向けた対策について

公益社団法人青森県獣医師会

日本獣医師会構成獣医師の推定組織率を農林水産省の獣医師届出状況を分母とし求めると、1998年（平成10年）から2022年（令和4年）の24年間で91.0%から60.8%と30.2%減少している。

過去には獣医師免許を取得したら獣医師会へ加入することが当然な時代もあったが、メリットとデメリットを追求する傾向が減少の要因と考えられる。特に、都市部の獣医師、20～30代の若手、勤務獣医師、女性獣医師、基礎系の大学教員、公務員では保健衛生に従事する職域の加入が少ない状況にある。また、会社勤務や公務員獣医師は、退職とともに退会する傾向にある。

多分野で活動している獣医師を地方会でフォローするには限りがあるため、組織率向上のためには日本獣医師会が主導して地方会と共に対策を講ずる必要がある。その施策の一部として下記の事項を要望する。

### 記

#### 1 社会貢献事業の拡充と広報活動の強化

ワンヘルス、災害救護、動物愛護、学校教育など社会貢献度が高い事業をさらに推進する。また、非会員に獣医師会の活動や理念を浸透させるため、SNS等を用い活動内容を広くアピールする。

#### 2 入会しやすい環境作り

① 日本獣医学生協会の協力により若い目線で魅力ある入会リーフレットを作成し学生に配布する。また、大学5・6年生を無料会員（準会員）として入会させ国家試験合格後に正会員に誘導する。さらに、国家試験合格5年以内の若手獣医師を対象に会費の減免措置を実施する。

② 地方会毎に組織構造が異なるものの将来的に全国で入会・変更の届出、地方会間の移動等を簡単にPCやスマートフォンで行うシステムを提供する。また、脱会した方が再入会する際の手続を簡素化する。

#### 3 会員のサービス向上

会員が気軽に参加できるコミュニケーションプラットホーム（診療技術、女性専用、趣味等）を提供する。また、クレーム対応、税金対策、就業等の相談窓口を設置し、eラーニング研修を強化する。さらに、ホテルや動物園等の割引サービスの提供を考える。

#### 4 差別化の強化

① 会員証、徽章、動物病院用の掲示板などの無償配布を行う。

② 携帯ストラップやネクタイなどのオリジナル製品を開発し無料提供や販売を考える。

③ 農場管理認定獣医師の他に、野生動物、動物園、水族館、災害獣医療、獣医公衆衛生、家畜衛生等の認定獣医師制度を検討し拡充する。

## (2) 狂犬病予防法施行規則に規定される予防注射時期の通年化に反対します

公益社団法人山形県獣医師会

令和5年地方分権改革に関して、愛媛県11市9町のうち4市7町が「狂犬病予防注射の実施時期等の見直しについて」提案した。これは、狂犬病予防法施行規則に規定する注射済票の交付について、3月2日から同月31日までの間に注射したものは翌年度の注射済票を交付する規定を撤廃し、4月1日を境に交付年度を分けること、また、それに伴い予防注射の時期について4月1日から6月30日までの間に1回受けさせなければならないとするのではなく、通年接種できるよう、求める内容である。

日本獣医師会は、令和6年4月、厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部長に対し「狂犬病予防法に基づく犬の登録と動物愛護管理法に基づくマイクロチップ登録制度の一体的運用に関する要請」を行い、同時に本提案のうち注射時期の見直しに反対を表明した。

しかし、厚生労働省は通年での接種を可能とすることについて市区町村等の意見を踏まえて検討するとし、令和6年12月20日を期限とするアンケート調査を実施した。

私達は、国内の狂犬病予防注射接種率を低下させないためには注射時期を限定する現行の体制を維持することが重要と考える。なお、山形県の状況は以下のとおりである。

- 1 本県では4月から6月の間に日時、会場を指定して集団接種する方式（以下「集合注射」という。）または動物病院で個別に接種を受ける方法を併用して効率的な注射業務を行っている。コロナ禍を契機に集合注射を中止または限定した市町があるなか、令和6年度4月から6月までの注射頭数は12月末累計注射頭数の約9割を占め、この間の高い接種率を維持している。

これは本会と行政機関が連携し、長年に亘り犬の飼い主及び県民に対し啓発活動を継続してきた結果であり、通年化は飼い主の義務感を薄れさせる危険がある。

- 2 時期を限定することで市町村は集中して事務処理することができ、むしろ事務負担の軽減に寄与している。注射時期の通年化を求める県内自治体はない。

- 3 本県には獣医療過疎地域が存在し、効率的に実施する集合注射を廃止すれば飼い主の利便性を削ぐことになる。

- 4 注射が年間に分散することでワクチン1パイアルを効率的に使い切ることができず、廃棄されるワクチンが増加し、経費が掛かり増しする。



# 令和7年度獣医学術東北地区学会・日本産業動物獣医学会の概要

日本産業動物獣医学会東北地区学会幹事 林 敏 展  
(青森支部 中央家畜保健衛生所)

令和7年10月9日(木)、秋田市の秋田キャッスルホテルにおいて、令和7年度日本産業動物獣医学会(東北地区)が開催されました。昨年度に引き続き、本年度も地区学会幹事として参加させていただきましたので、その概要をご報告いたします。

学会開始時に地区学会長の高橋 透先生および学会長代理として参加された副学会長の佐藤真澄先生からご挨拶がありました。また、昨年度の奨励賞の表彰があり、続いて全29演題の講演が行われました。なお、昨年度は22演題でしたので7演題増え、全演題の終了時間は16時頃となりました。

各演題の発表時間は8分、質疑討論は2分で構成され、診療の先生方から7演題、大学の先生方から7演題、家畜保健衛生所の先生方から14演題、さらに秋田市の動物園から1演題が発表されました。

午前中の発表最後には、日本産業動物獣医学会と日本獣医師会が立ち上げた制度である「農場管理認定獣医師」の説明が佐藤真澄先生からありました。この制度は、家畜衛生等に高い専門性を持つ農場管理獣医師が、さらに専門的知識・技術を修得することにより『農場管理認定獣医師』の資格を取得できるものです。佐藤先生は、この資格は獣医療法第17条による広告の制限には当たらず、専門性が高いことから生産者の利益を確保するとともに食の安全・安心に貢献するものであることを強調し、多くの学会参加者に認定制度への参加を呼びかけていました。

今回の発表内容は、診療現場における最新の実証や応用可能な技術、大学での臨床試験や研究成果、家畜衛生に基づいた検査やその対応策、さらには、“秋田うさぎ”などの希少種の保存、“キリン”

などの展示動物への対応など、多岐にわたっていました。また、産業動物獣医師としての活動において大変有益で、興味深い内容が多く含まれており、非常に刺激を受ける学会となりました。

特に、獣医学術東北地区学会賞に選出された、「牛舎環境材料による牛鼻腔内の呼吸器病関連病原体の推定」では、検査材料として水槽を用いる着目点や水槽スワブの成績は、その水槽を使用している子牛の鼻腔スワブの成績と一致しており家畜に負担なく畜舎の病原体の状況が分かることなどが平時のスクリーニング法として高く評価されました。

同じく獣医学術東北地区学会賞に選出された、「牛伝染性リンパ腫清浄化対策の進展により顕在化した課題と対策の検討：ある町の経験」では、牛伝染性リンパ腫清浄化を進めるに当たり、国内の清浄化に対する基準がないことを問題提起し、世界基準を参考に対策を進める取組や最終目的達成のためには手綱を緩めるわけにはいかない現実を認識させてくれる発表であり、家畜衛生行政の推進という観点から非常に価値の高い内容と評価されました。

これら選出された2演題は、私が従事している家畜衛生分野において、関心が高く応用することにより家畜衛生をさらに推進することができる内容で、非常に勉強になりました。

また、各講演後の質疑討論も非常に活発で、研究の効果をより明確に検証するための試験区設定の重要性に関する大学の先生からの助言や、現場の経験に基づいた診療の先生方の具体的な意見が交わされ、充実した情報交換の場となっていました。

発表終了後には、地区学会幹事による選考委員会が開催され、厳正な審査の結果、学会長賞を含む次の4題が選出されました。

### ○獣医学術東北地区学会長賞 2 演題

東北地区学会長賞は、本年 4 月に開催される第43回日本獣医師会獣医学術学会年次大会で発表される演題です。また、日本獣医師会の選出規程により発表20演題につき1題選出されることとなっています。そのため、先に記載しましたが次の2演題が選出されました。

演題No. 7：牛舎環境材料による牛鼻腔内の呼吸器病関連病原体の推定

(五嶋祐介、岩手県中央家保)

演題No.12：牛伝染性リンパ腫清浄化対策の進展により顕在化した課題と対策の検討：ある町の経験

(大橋郁代、山形県置賜家保)

### ○東北獣医師会連合会長賞 1 演題

演題No.15：秋田県における牛サルモネラ症の発生と対応事例

(清水典子ら、秋田県南部家保ほか)

選出理由 初動から再発防止対策までの整然かつ一貫した対応が評価されました。

### ○獣医学術東北地区学会奨励賞 1 演題

演題No.23：子牛の全身状態を迅速に把握する超音波スクリーニングプロトコルの構築と予備的評価

(佐々木結香ら、北里大)

選出理由 検査の方法や観察の順番を体系化し、検知しうる最大限の情報を取得するプロトコルを開発したことが評価されました。

今回の学会を通じて、産業動物獣医師には広範かつ深い知識と技術が求められることを改めて実感いたしました。また、演題数が多く、内容が豊富で発表をまとめ上げるまでの苦労や努力に敬意を表します。

今後も多くの先生方による研究成果の発表を期待するとともに、産業動物獣医学会がさらに発展し、ますます活発な場となることを祈念いたします。



産業動物東北地区学会長 高橋 透 先生 挨拶



産業動物東北地区獣医学会会場

# 令和7年度獣医学術東北地区学会・日本小動物獣医学会の概要

日本小動物獣医学会東北地区学会幹事 竹 原 律 郎  
(上十三支部 ふれあい動物病院院長)

令和7年度の日本小動物獣医学会（東北地区）が10月9日に秋田県獣医師会の担当で、秋田キャッスルホテルを会場として開催されました。

東北地区学会会長（小動物）の北里大学の岡野昇三先生から開会の挨拶があり、日本小動物獣医学会会長の佐藤れえ子先生の挨拶、奨励賞授与などが行われました。

午前の講演、お昼にはランチョンセミナーが行われました。動物病院の顧問やTV出演などもされている田村勇人 先生（弁護士法人フラクタル法律事務所 代表弁護士）が「クレーム相談から見えるクレームの傾向と対策」のタイトルで講演して下さいました。飼い主様に対する同意書など、実際的な内容で大変好評だったそうです。

午後、講演も滞りなく進み、時間通りに進行し拍手をもって学会を終了することができました。

この後、学会選考委員会が開催され、学会会長にも参加頂き受賞演題を決定しました。

各獣医師会の演題数 (計17題)

青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	仙台市
4	3	3	3	0	2	2

○令和7年度獣医学術東北地区学会の選考結果

獣医学術東北地区学会長賞

先天性門脈体循環シャント結紮後発作症候群の犬の一例における脳MRI継続的変化

小山英志、松本優真、牧野靖央

協同組合仙台獣医師会総合どうぶつ病院・仙台市

東北獣医師会連合会長賞

房室弁開放のタイミングで肺高血圧症の原因を判別できる

森田智也、棚橋蘭珠、藤原玲奈、小林沙織

宮本 良

岩大・小動物内科

獣医学術東北地区学会奨励賞

腫大した後腹膜リンパ節を腹腔鏡にて切除した犬の3例

鈴木宏隆<sup>1)</sup>、入屋咲葉子<sup>1)</sup>、伏見 桃<sup>2)</sup>

朴 永泰<sup>3)</sup>

1) 手形山すずき動物病院・秋田県

2) 伏見動物病院・栃木県

3) 自由が丘動物医療センター・東京都

○青森県の発表計4演題（発表順）

1 モルヌピラビルの投与で眼底病変の退縮が見られたFIPネコの一例

小山樹齡、田島一樹、杉内美咲、山下洋平

市川陽一朗、大高裕也、金井一享

北里大学・小動物第2内科

2 肝臓に発生した神経内分泌腫瘍に対して放射線治療を施行した猫の一例

杉内美咲<sup>1)</sup>、田島一樹<sup>1)</sup>、和田誠一<sup>2)</sup>

山下洋平<sup>1)</sup>、市川陽一朗<sup>1)</sup>、大高裕也<sup>1)</sup>

金井一享<sup>1)</sup>

1) 北里大学・小動物第2内科

2) 北里大学・獣医放射線



### 3 犬の血栓塞栓性出血性壊死性膀胱炎の一例

橋爪星斗<sup>1)</sup>、田島一樹<sup>1、2)</sup>、杉内美咲<sup>1)</sup>  
島岡千晶<sup>2)</sup>、ジョンソン久江<sup>3)</sup>、柿崎竹彦<sup>4)</sup>  
金井一享<sup>1)</sup>、川口博明<sup>5)</sup>

1) 北里大学・小動物第2内科

2) 北里大学・附属動物病院

3) Misawa Veterinary Clinic

4) 北里大学・獣医放射線

5) 北里大学・獣医病理

### 4 術前超音波検査による犬と猫の気管チューブ サイズの予測について

竹原律郎

ふれあい動物病院

#### ○発表概要について

褒賞演題は、上記の通り地区学会長賞1題、獣医師会連合会長賞1題、地区学会奨励賞1題が選出されました。

当日発表された演題は循環器4、腫瘍3、画像診断3、外科手術2、眼科2、整形1、消化器1、繁殖1の各分野の多岐にわたりました。

青森県の発表は昨年8つで、今年は4演題でした。青森県の演題の内容を少しご紹介いたします。

1のFIP（猫伝染性腹膜炎）の報告では、眼症状が併発した症例でモルヌピラビルによる治療で眼底所見がその他の臨床所見と治療反応に応じリンクを示しました。眼底所見の観察がFIPの治療効果、予後の指標となり得ることが示されました。

2の猫の肝臓に発生した大きな神経内分泌腫瘍の報告は、希少疾患で予後も悪く治療法も現在確立していません。3回の放射線照射により明らかに腫瘍が縮小し、6か月間の生存期間が得られ、ヒトと同様に放射線治療が神経内分泌腫瘍の進行抑止に期待ができる可能性が示されました。

3の犬の急性膀胱炎の報告は、重篤な転帰を示した症例で、凝固系、超音波、CT検査など詳しくモニターが行われました。前膀胱十二指腸動脈の血栓によ

り壊死性膀胱炎の発生を、剖検により明らかにした稀有で興味深い報告でした。

4は術前に犬猫の気管の超音波検査を実施し、気管内径をレントゲン検査値と比較した調査です。麻酔に使用する気管チューブを、この値を基に個体毎の適切サイズを概ね選択できることを示しました。示唆に富む貴重な症例、調査、研究を発表いただいた皆様に感謝申し上げます。来年度も発表されることを切に希望しています。

最後に、協賛企業の方々、各県獣医師会の運営の方々、日本獣医三学会および地区学会の役員の先生方、講師の先生方、参加して下さった会員の先生方お世話になりました。盛会に終わることができ、感謝いたします。ありがとうございました



小動物学会場（発表を聞く参加者）



審査会場（学会幹事の皆さん）

# 令和7年度獣医学術東北地区学会・日本獣医公衆衛生学会の概要

日本獣医公衆衛生学会東北地区学会幹事 宮 村 尚 道  
(上十三支部 青森県食肉衛生検査所)

令和7年10月9日(木)秋田キャッスルホテル(秋田市)において、令和7年度獣医学術東北地区学会が開催されました。

当日は、学会開催に先立ち令和7年度獣医学術東北地区学会実行委員会が、産業動物、小動物、公衆衛生合同で開催され、その後、部会毎に分かれて打合せをしました。公衆衛生部会では佐藤至 東北地区学会長から幹事に対し、座長としての学会進行及び審査員としての演題審査(共同研究者となっている演題については審査対象外であること)について説明がありました。

獣医公衆衛生学会は予定どおり午前9時から始まりました。佐藤東北地区学会長の挨拶、昨年度の獣医学術東北地区学会奨励賞を受賞した山形県置賜食肉衛生検査所他の「と畜場における馬のEHEC汚染リスク調査」の表彰を行い、令和7年度日本獣医公衆衛生副学会長の挨拶がありました。

発表演題は16題ありましたが、微生物、理化学、病理、動物愛護等幅広い内容であり、あらためて公衆衛生学は奥深い学問であると感じました。

演題発表終了後、学会選考委員会が開催され、次の各賞が決定しました。

## ○獣医学術東北地区学会長賞

サルモネラ属菌の分離培養方法の検証について

岩手県食肉衛生検査所 北村 洸人 ほか

## ○東北獣医師会連合会長賞

管内と畜場の*Listeria* spp.環境モニタリングの有用性

山形市食肉衛生検査所 平野かおり ほか

## ○獣医学術東北地区学会奨励賞

*Campylobacter jejuni/coli*のMultiplex PCR法による菌種同定手法の改善について

福島県食肉衛生検査所 本田 有希 ほか

受賞された方々、誠におめでとうございます。

また、日常業務が多忙なところ調査研究に多大な時間を費やし、発表いただいた皆様に感謝申し上げます。

最後に、今後も多様な調査研究成果が発表されることを期待しています。



学会奨励賞受賞者



佐々木先生の発表



獣医公衆衛生学会会場

# 全国食鳥指定検査機関情報連絡会議研究発表演題

## ○暑熱が食鳥検査成績に及ぼす影響とその対策

(公社) 青森県獣医師会食鳥検査センター

○松本 敦、中村 成宗※、新谷 哲士

※ (公社) 青森県獣医師会事務局

### 1 はじめに

2023年の7月から9月は、青森県における平均気温が前年と比べ高く食鳥検査を実施しているA食鳥処理場（以下、「処理場」と言う。）では、ブロイラーの増体率の減少など成績が悪化した。

そこで、暑熱が食鳥検査成績に及ぼす影響を分析するとともに、2024年も猛暑となることを想定し様々な暑熱対策を指定検査機関の検査員（以下、「検査員」と言う。）と処理場が連携し実施したので、その概要を報告する。

生体検査では、検査員がパンティングの状況を注意深く観察するとともに、送風による空気の流れと輸送カゴの幅を確認し、その都度、処理場に助言することにより温度管理を徹底した。



対 策 前  
(待機60分程度)



対 策 後  
(待機30~40分)

図1 搬入時間の調整

### 2 処理場の概要

処理場では、チャンキー種を1日当たり約55,000羽、1か月当たり約100~130万羽処理している。農場は全て直営で、処理場へはジャストイン方式で搬入している。また、食鳥検査に係る検査員は1日3名で、早番、中番、遅番の3交代で従事している。



対 策 前  
(調整なし)



対 策 後  
(気流により調整)

図2 輸送コンテナの間隔

### 3 暑熱対策

農場では、鶏舎内の送風管理など一般的な飼養衛生管理を徹底しストレスの軽減を図った。また、8月に出荷を制限することとし、出荷羽数を前年(2023年)より5万羽減らした。

処理場では、プラットホームでの生鳥の待機時間を短縮するため、農場からの搬入時間を細かく調整し待機時間を20から30分程度短縮した。(図1) また、輸送カゴの間隔を開けて気流を確保し気温の上昇を防いだ。(図2)

### 4 気温の推移

処理場の近くにある地域気象観測システム（アメダス）の年平均気温、月平均気温及び最高気温30℃以上の日数について確認した。

2014年から2022年までの8年間の年平均気温は、概ね10℃から10.5℃の範囲であった。

2023年は2022年の10.5℃と比べ、気候変化を起こすと言われる1.0℃を超える11.7℃を記録した。また、2024年も11.4℃と高い気温だった。

2021年から2024年までの7月から9月の月平均気

温は、2021年を除き8月の気温が一番高く2022年は22.3℃であったが、2023年には26.1℃と約4℃上昇した。また、2024年も24.2℃と気温はかった。2023年と2024年の7月や9月も同じ傾向で2℃前後高い気温であった。(図3)

2021年から2024年までの7月から8月の気温30℃以上の日数は、2023年が一番多く7月は8日、8月は19日、9月は3日であった。なお、2021年、2022年、2024年は8日を超える月はなかった。(図4)

以上のことから、2023年は気温が高く、2024年も高めに推移した年であった。

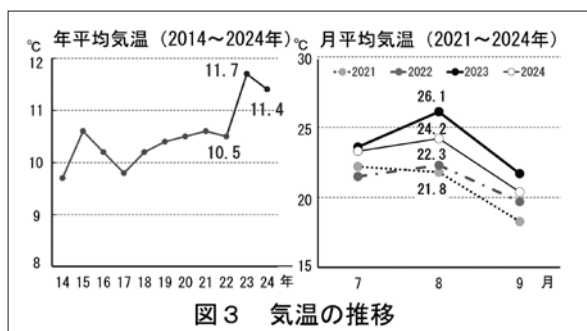


図3 気温の推移

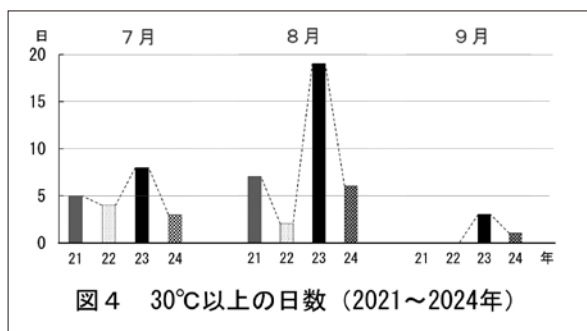


図4 30℃以上の日数 (2021~2024年)

## 5 食鳥検査成績

2021年から2024年までの4年間について、7月から9月の出荷体重、プラットホームでの死鳥率、自主廃棄率、検査による全部廃棄率を調査した。

出荷体重は、2021年と2022年は月毎に大きな変化は見られず3.0kg前後で推移していた。2023年の7月は3.0kgであったが、8月は2.80kg、9月は2.75kgと増体が極端に悪化した。2024年の7月は3.0kgであったが、8月、9月ともに2.95kgと2021年、2022年より低い体重であった。(図5)

死鳥率は、2021年と2022年は月毎に大きな変化は見られず0.02%前後で推移していた。2023年7月は0.03%であったが、8月は倍の0.06%に上昇し9月も0.055%と高く推移した。2024年は7月0.03%、8月0.039%と高めに死鳥率が推移したが、9月は0.02%に減少した。(図6)

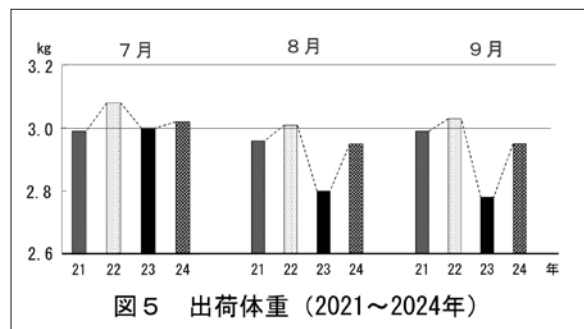


図5 出荷体重 (2021~2024年)

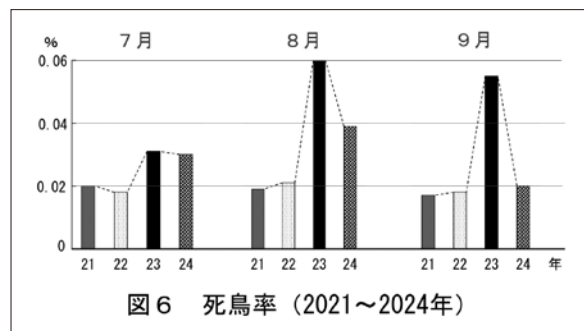


図6 死鳥率 (2021~2024年)

自主廃棄率は、2021年と2022年は月毎に大きな変化は見られず1.0%前後で推移していた。2023年7月は1.0%と同等の低い廃棄率であったが、8月は3.6%に上昇し9月も2.8%と高く推移した。2024年は7月1.7%で、8月も1.9%と高めに推移していたが、9月は1.0%に減少した。(図7)

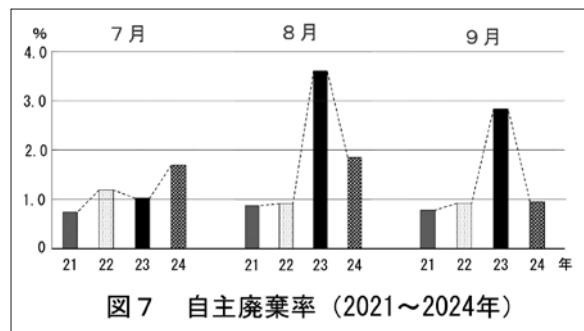


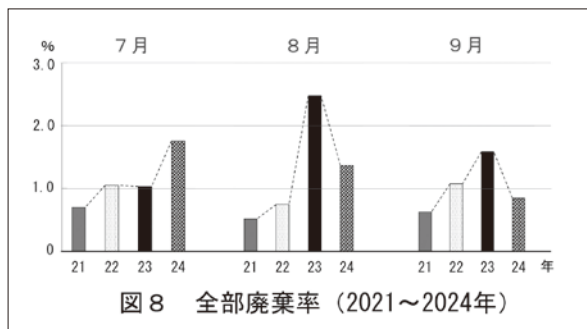
図7 自主廃棄率 (2021~2024年)

全部廃棄率は、2021年と2022年は月毎に大きな変化は見られず1.0%前後で推移していた。2023年7



月は同等の1.0%であったが、8月は2.5%に上昇し9月は1.6%と高く推移した。2024年7月は1.8%で、8月も1.4%と高めに推移したが、9月は0.9%に減少した。(図8)

なお、死鳥率、自主廃棄率及び全部廃棄率の増減の傾向は同じであった。



## 6 まとめ及び考察

暑熱は鶏の増体率の減少の他、死鳥率、自主廃棄率、全部廃棄率を増加させるなど生産性に大きな影響を及ぼしたと考えられた。

渡邊<sup>1)</sup>らは、ブロイラーの生産性に影響を与える暑熱の影響は、飼料摂取量と増体率の減少、出荷間際の鶏の熱死と報告しているが、食鳥検査成績へ及ぼす影響については考察されていない。今回、気温の上昇により死鳥や自主廃棄率、全部廃棄率が上昇することを確認した。しかし、食鳥検査成績の悪化は、生産農場の疾病発生状況と関連することから、今後は農場の疾病成績を踏まえ詳細に暑熱の影響を検討する必要がある。

今回、2024年の猛暑を想定し主に食鳥処理場で様々な対策を行った。その結果、2023年と比較すると増体率が回復し、死鳥率も減少、自主・全部廃棄も7月を除き減少した。成績が改善された主な原因は、2024年8月、9月の平均気温が2023年と比較し、それぞれ1.9℃と1.6℃低かったためと考えられ、暑熱対策を評価することはできなかった。

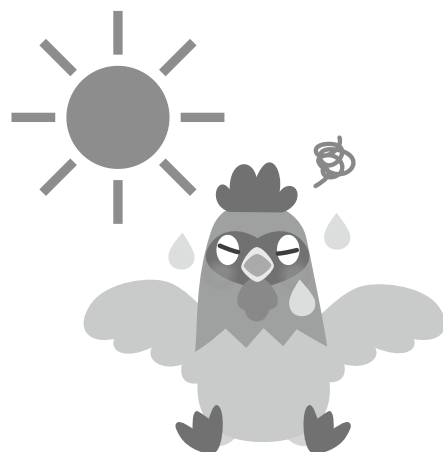
山崎らは<sup>2)</sup>、ブロイラー生産性と環境との関係を数式化し、2020年、2040年、2060年の産肉量を解析

し、九州地方では暑熱により大きな生産性低下が生ずると予測し、東北地方においても気温が上昇するとしている。

生産性の維持とアニマルウェルフェアの観点からも暑熱対策は重要で、本県は夏季冷涼でブロイラーの飼育に好条件であると言われているが、気温の上昇に備え今後とも処理場と協力し新たな取り組みを推進する所存である。

## 引用文献

- (1) 渡邊ら：採卵鶏とブロイラーの暑熱対策。鶏病研究会報51巻1号、1-10 (2015)
- (2) 山崎ら：平均気温の変動からわが国の鶏肉生産に対する地球温暖化の影響。日本畜産学会報77巻2号,231-235 (2006)





## ○採卵用成鶏でみられた胆管肝炎

(公社) 青森県獣医師会食鳥検査センター

○赤沼 保、松浦 貢、木村美弥子  
牧野 仁、新谷 哲士

### はじめに

ブロイラー鶏における胆管肝炎は1983年にカナダにおいて初めて報告され、わが国では1996年に間瀬らにより初めて報告されている<sup>1)</sup>。発生原因は明らかではないが、罹患鶏の肝臓及び胆嚢からしばしば*Clostridium perfringens*が分離されている<sup>2,3)</sup>。胆管肝炎は諸外国及び国内でもブロイラーにおける発生が主体であり<sup>4,5)</sup>、採卵鶏における発生はまれとされている<sup>6)</sup>。

今回、食鳥検査において廃棄処分となった採卵用成鶏3例について病理学的検査を行い、胆管肝炎と診断し、病変の分布などについて比較したので概要を報告する。

### 材料及び方法

#### 1 材 料

2023年6月から2024年5月までの間に県内の食鳥処理場で処理された採卵用成鶏（ジュリア、約700日齢）のうち、内臓摘出後検査で肝臓病変のため部分廃棄となった2例の肝臓及び全部廃棄となった1例の主要臓器を検体とした。

#### 2 方 法

採材した臓器を10%ホルマリン液で固定後、常法に従いパラフィン切片を作製し、ヘマトキシリン・エオジン染色を行った。さらに、全例の肝臓についてマッソントリクローム染色を、採材した全ての臓器についてグラム染色を実施した。

### 成 績

#### 1 剖検所見

全例の肝臓は退色し、症例1は肝臓表面が不整な大小結節状（写真1）、症例2と症例3の肝臓は腫

大・硬結していた（写真2）。また、症例2で胆嚢の膨隆、肝内胆管の拡張、症例3では乾酪様病変が認められた。全部廃棄の症例3では肝臓以外の臓器に著変は認められなかった。

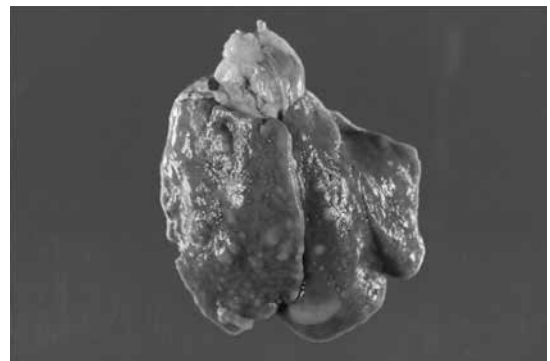


写真1 症例1の肝臓表面 不整大小結節状

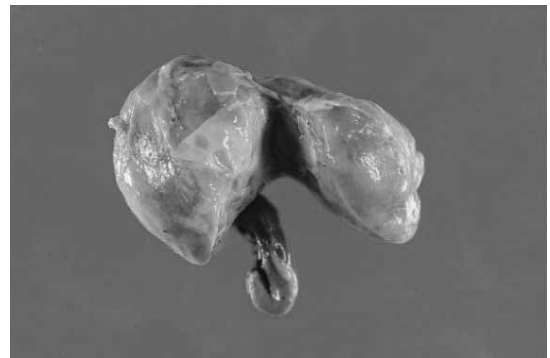


写真2 症例2・3の肝臓 腫大・硬結、胆嚢膨隆

#### 2 組織所見

肝臓では全例でグリソン鞘を中心とした細胆管の増生及び線維化が著しく、症例1では残存した肝細胞は島状を呈していた（写真3）。一方、症例2と症例3では肝細胞は結合組織の増生により分画されていた（写真4）。増生した細胆管は円形の核と淡明な細胞質を有する立方ないし円柱状の上皮細胞からなり、周囲は膠原線維により取り囲まれていた（写真5）。また、増生した細胆管の間質及びグリソン鞘にはリンパ球、偽好酸球や骨髓球が中等度浸

潤、集簇していた。そのほか症例2では肝内胆管が拡張し、一部は細胞退廃物を容れていた。症例3では乾酪様病変部位において多発性肉芽腫が観察されたが、肝臓以外の臓器では著変はみられなかった。マッソントリクローム染色では全例の細胆管増生部位において、個々の細胆管を取り囲む膠原線維が網目状に観察された。グラム染色では全ての臓器から細菌は検出されなかった。

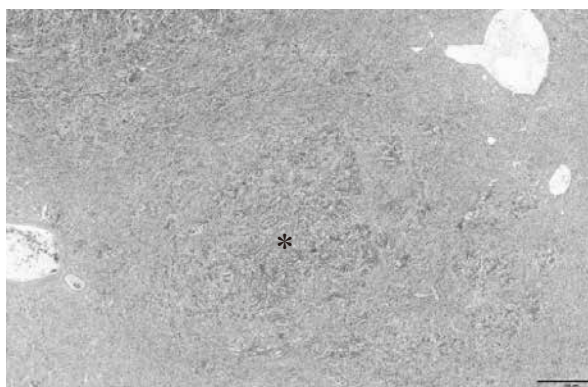


写真3 症例1の肝臓。細胆管増生及び線維化により肝細胞(\*)は島状に残存。HE染色 Bar=500 μm



写真4 症例2の肝臓。肝細胞(\*)は結合組織の増生により分画。HE染色 Bar= 1 mm

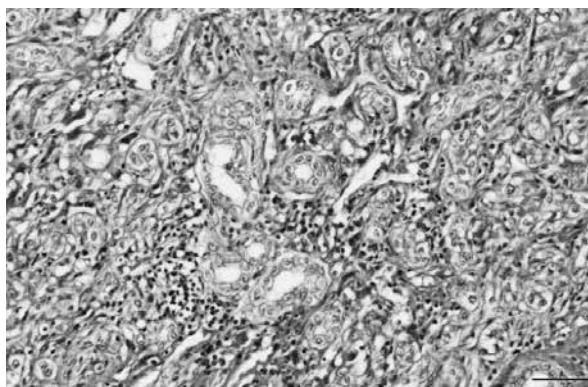


写真5 症例1のグリソン鞘領域における細胆管の増生。HE染色 Bar=50 μm

## 考 察

鶏における胆管肝炎の報告例<sup>1-6)</sup>では、すべての事例で肝細胞は島状に残存しており、症例1はそれらと同様の組織像を呈していた。一方、症例2と症例3は過去の報告例とは異なり、残存した肝細胞は結合組織により被包化され細胆管増生部位とは分画されており、興味深い症例と考えられた。

また、2例の肝臓と1例の主要臓器についてグラム染色を実施したが、いずれの臓器からも細菌は検出されず、*C.perfringens*の関与については不明であった。

今回、みられた胆管肝炎の病変がどのように形成されたかについては不明な点が多く、病原体の種類、鶏種、日齢などの要因について、今後さらに検討する必要があると考えられた。

## 引用文献

- (1) 間瀬公子, 御領政信, 三浦節夫, 大越憲幸, 岡田幸助: ブロイラー鶏における胆管肝炎 (Cholangiohepatitis) の病理, 鶏病研報, 32,284-89 (1996)
- (2) 佐々木淳, 御領政信, 布留川洋, 大越憲幸, 岡田幸助: ブロイラー鶏における胆管肝炎 (Cholangiohepatitis) 罹患鶏の病理, *Clostridium perfringens*の分離・同定及び接種実験, 鶏病研報, 33,279-85 (1997)
- (3) 佐々木淳, 御領政信, 大越憲幸, 布留川洋, 本田城寿, 岡田幸助: ブロイラー鶏における *Clostridium perfringens*による胆管肝炎の集団発生, 日獣会誌, 51,528-532 (1998)
- (4) 木村晶子: 胆管肝炎, 鶏病研報, 32,4,223 (1997)
- (5) 柴具仁子: ブロイラーの胆管肝炎, 鶏病研報, 46,3,195 (2010)
- (6) 出村尚子: 採卵鶏の胆管肝炎, 鶏病研報, 33,1,46 (1997)

# 「2025動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”」が開催されました

## 事務局

2025年11月15日（土）10時～16時、東京都の上野恩賜公園（水上音楽堂と不忍池周辺）で、公益社団法人日本獣医師会が「2025動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”」を開催しました。テーマは、「動物と人の健康はひとつ。そして、それは地球の願い」です。



藏内会長の挨拶

このイベントは、獣医療の提供、畜産物の生産と流通、生産性の向上、人と動物の共通感染症の防疫、医薬品の開発・研究、獣医学の教育・研究、動物福祉・愛護、野生動物

保護管理など、多岐にわたる獣医師の役割と活動を普及することを目的とし、年に一度開催されています。また、世界獣医師会（WVA）が各国での開催を提唱している、世界的な獣医師の役割を広めることを目的とした「World Veterinary Day」の一環としても位置付けられています。

当日の朝10時から、上野恩賜公園水上音楽堂でオープニングセレモニーが行われました。

まずは、日本獣医師会の藏内勇夫会長がご挨拶。

その後、

- ・片山さつき 財務大臣
- ・鈴木 憲和 農林水産大臣



ご来賓の方々

- ・森 英介 衆議院議員

（自民党ワンヘルス推進議員連盟 顧問）

- ・大家 敏志 参議院議員

（自民党ワンヘルス推進議員連盟 副会長）

からご祝辞をいただきました。

さらに、林 芳正総務大臣や有村治子自民党総務会長、小池百合子東京都知事など多数の方々の祝電が紹介されました。

最後に、日本獣医師会の鳥海弘副会長が開会宣言を行い、イベントがスタートしました！

青森県獣医師会は、青森県動物愛護センターが開催している「動物愛護フェスティバル」の内容や青森県の観光などをアピールするため東北獣医師会連合会のブースに参加し、青森県誘客交流課から提供された観光パンフレットを配付するなど、たくさんの方に青森県の魅力を発信しました。

また、水上音楽堂のステージでは獣医師の仕事や家畜や愛玩動物の病気、ヒトと動物との適正な関係、薬剤耐性に係る内容について、それぞれ芝居などユーモアを交えて紹介していました。また、日本獣医学生協会（JAVS）ブース、獣医系大学のブースなどでは、獣医師希望者の受験相談や大学紹介などを行っていました。さらに、1日獣医師体験のブースには、多くの来場者の方々が訪れ獣医学生と一緒に白衣を着て、聴診器で犬の心音を聞くなど獣医師の仕事を体験していました。



東北獣医師会連合会のブース



## 3師会と日本獣医師会との比較（2） ～ 組織率の向上を目指して ～

事務局

### 3師会と日本獣医師会の活動

さて、各会では具体的にどのような活動をしているのでしょうか。

表2に各会のホームページから確認した大まかな事業を示しました。各会とも学術雑誌の刊行や学会の開催、生涯学習（講習会、研修会、eラーニング等）の実施、男女共同参画事業（女性のための事業）を実施しています。なお、医師会や歯科医師会の学習サイトは、見やすく日本獣医師会と比べ内容も充実しているように思われました。これは、日本獣医師会ホームページの「女性獣医師応援ポータルサイト」にeラーニング等の学習サイトが格納されているため、分かりにくいことも影響しています。

羨ましいのは、3師会の場合、学校教育現場の保健衛生指導については関係法により整備されている

点です。人の健康が一番であることは当たり前のことで、学校教育現場での健康状態の確認、感染症予防、生活衛生指導などの実施が法によって整備されています。

一方、日本獣医師会が実施している学校飼育動物の活動は、小学校学習指導要領生活編（平成10年12月）に「動物の飼育に当たっては、専門的な知識をもった地域の専門家や獣医師などの多くの支援者と連携して」と獣医師について記載されているだけです。また、平成14年環境省告示第37号（最終改正：令和4年環境省告示第64号）家庭動物の飼育及び保管に関する基準においても「動物の飼養及び保管が、獣医師等十分な知識と飼養経験を有する者の指導の下に、」と適正管理に係る獣医師の存在について簡単に述べられているだけで、しっかりとした根拠が

表2 各会の主な活動

項目	日本医師会	日本歯科医師会	日本薬剤師会	日本獣医師会
学術雑誌の刊行	○	○	○	○
学会・講習会・研修会	○	○	○	○
生涯教育・学習制度	○	○	○	○
調査・研究、情報提供	○	○	○	○
世界との情報の交換大会・学会の開催	○	○	○	○
男女共同参画（女性のための事業）	○	○	○	○
学校・教育	法に基づく学校医	法に基づく学校歯科医	法に基づく学校薬剤師	学校教育動物
独自の認定	産業医 健康スポーツ医	認定なし	認定なし	産業動物管理獣医師
年金・共済制度	年金保険制度	年金保険制度		×
損害賠償保険等の斡旋	○	○	○	○
その他	医学図書館の運営		調剤システム	マイクロチップ普及
	新会員情報管理		お薬手帳	

※各会のホームページから主な共通事業を抜粋。

※その他について、特徴的と考えられた事業等を記載。一部名称を分かりやすいように改変。



ありません。

動物を飼育することから得られる児童の情操教育や“いのち”の教育は、大勢の方々がかげがえのないものと考えています。そのため、文部科学省の規則や動物の愛護及び管理に関する法律等の中に獣医師の介在と役割について明確に規定するなどの対応が必要なのではないかと考えています。

他に医師会や歯科医師会では年金保険制度があります。これは、積立型私的年金制度であり、加入していた会員には65歳から終身まで公的年金以外に年金が支給されます。このような制度は、組織の資金が潤沢にあるため運営が可能な制度と考えています。日本獣医師会にあっても良い制度かもしれません。

なお、その他に記載していますが、日本医師会の場合、東京都文京区に医学図書館を運営し医師の学術情報等を会員に発信しており、文献の取り寄せなども簡単に行われているようです。また、会員の入会手続きがスマートフォンやパソコン等から「医師会会員情報システム（MAMIS：マミス）」を通じて行うこととなっています。

## 東北各県・仙台市獣医師会の組織率

東北各県・仙台市獣医師会の組織率を表3に示します。令和4年（2022年）の獣医師法第22条の取り

まとめによると東北全体の獣医師届出数は、3,015人であり、東北各県・仙台市獣医師会の会員数は令和4年3月31日現在で2,480人となっています。

令和4年の獣医師法第22条の集計は令和3年12月31日現在の状況を報告するもので、会員数の集計とは約3か月間のズレがありますが組織率を求めると82.3%となっています。これは、日本獣医師会の構成獣医師組織率約60.8%を20ポイントほど超えており優秀な組織率といえます。

ただし、日本獣医師会の組織率が低いのは東京都などの都市部の組織率（東京都21%、大阪府33%、神奈川県33%、埼玉県43%）が低いためであり、各地方の組織率は70～80%前後と比較的高い数値となっています。なぜ、都市部の獣医師が獣医師会に入会しないのか、その理由と原因を捉え改善しなければ大きな組織率の向上はありません。

なお、日本医師会の組織率をホームページで確認したところ、地方と都市との差はあまりないようです。その理由はよく分かりませんが、大学の学部制度や各学科の医局制度が大きく医師会の入会に関与しているように思えます。特に〇〇大学医学部医師会などの支部等が大学にあることから、教授が会員で医局員等に勧誘するなどの対応がとられている可能性もあります。

表3 東北各県・仙台市獣医師会の組織率

会員数	平成10年			平成20年			平成30年			令和2年			令和4年			令和6年
	会員数※	届出数※※	組織率(%)	会員数	届出数	組織率(%)	会員数	届出数	組織率(%)	会員数	届出数	組織率(%)	会員数	届出数	組織率(%)	会員数
青森県	438	530	82.64	453	548	82.7	439	548	80.1	414	531	78.0	399	528	75.6	397
岩手県	636	638	99.69	625	644	97.0	574	608	94.4	561	603	93.0	557	627	88.8	541
宮城県	570	614	92.8	421	631	84.5	384	678	73.7	382	707	69.6	369	686	70.1	377
仙台市				112			116			110			112			108
秋田県	322	325	99.08	284	292	97.3	277	291	95.2	261	279	93.5	250	279	89.6	245
山形県	336	328	102.4	345	343	100.6	337	341	98.8	335	346	96.8	340	358	95.0	333
福島県	530	581	91.22	527	582	90.5	478	551	86.8	460	549	83.8	453	537	84.4	435
計	2,832	3,016	93.9	2,767	3,040	91.0	2,605	3,017	86.3	2,523	3,015	83.7	2,480	3,015	82.3	2,436

※※会員数：各年度3月31日現在

※届出数：獣医師法第22条による12月31日現在の状況

さて、東北地方の組織率は高いことが分かります。しかし、平成10年（1998年）の組織率は93.9%であったものの、24年後の令和4年では約10ポイント組織率が減少しています。

なお、本会の場合、令和4年度の会員数は399名で獣医師法22条の届出数は528人であることから組織率75.6%と東北平均組織率よりもさらに10ポイント低い状況となっています。また、令和6年9月30日現在の会員数は392名で、毎年2～3名の会員が脱会している状態にあります。平成10年の届出数は約530人で、令和4年は528人と届出された獣医師数に大きな増減はないため、組織率の低下は他の地方会と比べ深刻な状況だと考えることができます。

一方、表3のとおり宮城県と青森県を除く東北各県の組織率は80%以上と非常に高い状態です。減少率について令和2年と令和4年の2年間で比較すると宮城県、山形県及び福島県獣医師会はほとんど組織率が低下していませんが、本県を含む他の地方会は、2～5ポイント減少しています。

なお、日本獣医師会全体では、会員構成獣医師が年1.0%以上減少し続けているとのことでした。

## 女性獣医師の増加について

今後の獣医師の動向を知るため、私立獣医大学の状況について日本私立獣医科大学協会会長の高井伸二先生が書かれた「獣医師の地域偏在と職域偏在～私立5大学の入試・就職情報から見えてくるもの

～」から、私立5大学の2012年から2023年の入試データ解析の一部を転記します。

『獣医師志願者における女性割合が2016年に50%を超え、2023年には60%を超えた。更に、入学者における女性割合増加速度は、志願者数・合格者数よりも速く、2013年度には50%を超え、2021年には60%を超えた。優秀な女性が多いという証拠である。』（原文転記）

これを簡単にまとめると「女性は優秀で、今後には女性獣医師が増え続け女性の比率60%の時代がくる。」ということになります。

令和6年2月に農林水産省が公表している「獣医師をめぐる情勢」には、獣医師の男女比のデータが記載されています。20代の女性獣医師の割合は、すでに54.8%を占めており、30代は43.8%となっています。今後、徐々に女性比率が上昇することは間違いありません。

男女の獣医師会加入状況を表4に示します。日本獣医師会の男性の加入率は69.7%に対し、女性の加入率は39.4%であることが分かっています。

データ不足により比較する年次が異なりますが、本会の場合も男性と比較し女性の加入率が低い状態であることは変わりありません。しかし、男性78.8%、女性64.9%と女性の加入率が日本獣医師会に比べ25.5ポイントも高くなっています。

いずれにしろ、今後、女性獣医師の割合が増加することを考えると、組織率向上に向けて女性獣医師

表4 会員獣医師数及び加入率

	日本獣医師会			青森県獣医師会		
	獣医師総数	会員数	加入率	獣医師総数	会員数	加入率
男 性	26,320	18,348	69.7%	382	301	78.8%
女 性	14,135	5,572	39.4%	148	96	64.9%
合 計	40,455	23,920	59.1%	528	397	75.2%

※獣医師総数は、令和4年獣医師法第22条届出状況。（農林水産省）

※会員数は女性獣医師活躍推進のための取組推進調査令和6年から：日本獣医師会）

※青森県獣医師会は、令和6年3月31日現在

にもターゲットを絞り対策を講ずる必要があると考えています。

なお、日本獣医師会では「女性獣医師応援ポータルサイト」など女性獣医師に配慮しています。しかし、その内容は、女性獣医師がより活躍できる環境づくりや獣医師全体のワーク・ライフ・バランス向上を目指している内容であり、直接的に女性獣医師に対して加入を促すものになっていません。

## 組織率向上を目指して

個人的な感想ですが、昭和や平成初期には獣医師国家試験を合格したら獣医師会に入会するのが当たり前の時代であったような気がします。先輩獣医師の方々からの強い入会の誘いもありました。また、入会することによって、何かステータスが得られた満足感もあったような気がします。日本獣医師会の組織率も平成10年（1998年）は91.0%と高いものでした。

全て、時代が変わった、ゆとり教育など教育環境に変化があった、情報社会となり急激に社会が変革され獣医師会から情報を得る必要がなくなったなど、組織率が低下した理由を述べることは簡単なものなのかもしれません。

日本獣医師会の仕組み（日本獣医師会の会員は地方会で、地方会に属する獣医師は会員構成獣医師となる。）から考えると組織率を上げるためには地方会が努力する必要があります。しかし、日本獣医師会の役割も大きいものと考えます。

組織率向上のためには、日本獣医師会が国内に居住する全ての獣医師を代表する唯一無二の組織であることを社会に広く知らしめる必要があります。

そのためには、公益事業などの役割を強力に推進し、社会から大きく信頼・期待され、国民が広く獣医師会の活動に対して理解して頂くことが肝要だと考えています。このような公益活動を継続し広報活動を行うことによって、非会員の獣医師の方々が獣医師会の会員として各公益事業に参加したいと言う

意識を芽生えさせることができれば、組織率の向上が期待できるのではないのでしょうか。また、会員の退会を止めるためには、仲間意識が重要で会員同士の繋がりを強化することも重要と考えます。

さて、若い方々の中には獣医師会の入会に際してメリットとデメリットを追求する傾向が強くなっています。確かに会費に見合うメリットが提供されることが必要だと考えています。しかし、会費に見合うメリットとは何なのでしょう。形の有る物、無い物など様々あるでしょうがメリットがあると受け止められる事、例えば非常に客観的な言い方ですが会員になることによって守られる安心感、ステータスとしての優越感、入会することによる利便性、収益性の向上、共通な趣味を共有できる娯楽性などが考えられるのではないのでしょうか。

なお、これまでの調査により都市部の獣医師や女性獣医師、20～30代の若手、動物病院や会社に勤務する獣医師、基礎系の大学教官、公務員では公衆衛生に従事している獣医師の方々の加入率が少ないことが分かっています。また、会社員や公務員の獣医師は、退職時に退会するケースが多いことも分かっています。そのため、これらのことを一つ一つ改善すると組織率の向上に繋がると考えられますが、どのようにしたら良いのでしょうか。一度に全ての対策を講ずることは難しそうです。

そのため、当面は、学生勧誘、都市部の獣医師と女性獣医師に的を絞り様々な対策を講ずる必要があるものと考えています。

具体的な対策について様々あるのですが、日本獣医師会が主導し地方会と調整・連携し役割分担をしながら対策を講ずる必要があります。

どうすれば、組織率の向上につながるかを考えてみました。



### ①広報活動の強化

獣医師会の活動をアピールするため、Youtube公式チャンネルを開設し様々な活動を紹介する。また、SNS等を活用した広報活動も実施する。

特に、広報活動は都市部の非会員の方々に対して、獣医師会の存在と社会貢献事業等について意識してもらうような内容とする。(獣医師や獣医師会の活動内容、日本動物児童文学賞の内容、または、活動を漫画化するのも良いかも知れません。)

関係する情報(小動物、産業動物など)を会員に速やかにメーリングリストにより配信する。また、地方会も広報活動を活発化させ、イベントや会員相互の親睦活動等を積極的に開催することも重要。

### ②社会事業の積極的な展開

ワンヘルス、災害救護活動、動物愛護活動、学校教育など社会貢献度が高い事業を強力に展開し、国民に獣医師会の活動を知って頂く。さらに、これらの事業に会員が参加しやすい仕組みを考え、積極的に事業に参画することで会員であることの誇りと連帯感を芽生えさせることが重要。事業に参加した獣医師にポイントを付与し、一定の点数になったら日本獣医師会から表彰される仕組みも励みになるのではないだろうか。

### ③会員の勧誘

学生や新しく獣医師になった若い方々へアプローチするため、日本獣医学生協会(JAVS)等の協力により若い目線で魅力ある入会リーフレットを作成する。作成されたリーフレット等は最終学年の獣医学部学生に配布する。また、機会ある度に新会員の勧誘に利用する。

### ④大学生の対応と会費減免措置

大学の講義に獣医師会の活動を紹介する時間を

入れて頂き理解を深めてもらう。さらに、機会ある度に大学に出向き獣医師会の活動を紹介する。特に大学5・6年生は、無料の学生会員(準会員)とし日本獣医師会に入会させ、国家試験合格後は自動的に地方会の会員となるよう誘導する。

また、国家試験合格後5年以内の若手獣医師並びに大学院生に対しては、会費の減免措置を考える。

### ⑤入会システム

地方会の実情を踏まえながら、入会手続や変更の届出を簡単にPCやスマートフォンなどで出来るシステムを構築し運用する。特に脱会した方が再入会する際の事務手続きを簡素化する。また、他都道府県に勤務地が変わっても自動的に又は簡単に手続きが実施されるよう移動先の地方会と連携する仕組みを考える。その際、移動先の地方会では入会金を徴収しない方法で調整する。

### ⑥会員相談窓口の設置

都市部の開業獣医師が抱える諸問題、例えばクレーム対応、税金問題、社会保障、雇用問題、訴訟問題等に対する相談の窓口や就業関係の窓口など、要望を踏まえて開設する。また、各相談に対する相談内容、回答内容などのデータを取りまとめ会員専用のホームページで公開する。

### ⑦学術情報の強化

会員専用の文献等提供サービスを実施する。

また、地方会毎に発行している会報誌の内容をアーカイブ化し提供する。

eラーニングによる研修制度を経験別(レジデント、フェロー等)、現在の職域別(小動物・大動物、家畜衛生、公衆衛生(現在も細分されて掲載されているが、内容は国家試験の過去問題でさらに内容の充実が必要。))に細分し、より実践的なものとする。



現在、日本獣医師会のホームページに「学会・イベント情報」の項目があるが、日本獣医師会及び各都道府県・各市獣医師会が開催する全ての研修会・講習会等を掲載するようにする。また、研修等の内容、開催場所などをホームページ上でキーワード検索できるシステムなど、会員構成獣医師ならば安価な経費で簡単に参加できるようにする。

#### ⑧女性獣医師を対象とした事業拡充

現在、実施している女性獣医師を対象とした就業サポートや専用講習・研修等を拡充させ、女性再就職バンクなどを充実させる。

また、支援相談窓口の設置や女性獣医師の勤務環境の整備に関する講習会等の開催を積極的に実施する。さらに、女性獣医師の専用のコミュニケーションプラットフォームを設け、女性獣医師同士が気軽に情報を交換できる情報の場を提供する。

#### ⑨会員サービスの向上

ホテルチェーンの法人割引、旅行会社等との契約など宿泊・利用割引に関するサービスを行う。また、日本動物園水族館協会や日本水族館協会等と提携し動物園・水族館などの入園割引など様々なサービスを展開する。さらに、全国の会員で共通な趣味等をもっている方々が気軽に参加できる

会員専用のコミュニケーションプラットフォームを開設し提供する。

#### ⑩差別化の強化

会員証・徽章、動物病院に掲載する掲示板などの無料配布を行い会員と非会員との差別化を徹底する。特に会員証を利用して学会やレセプションの参加等を簡単に登録・確認できるようにする。現在、生涯研修事業については公益活動として獣医師会に入会していない者でも参加できるようになっている。これを改め、会員のみとし「認定証(獣医師生涯研修継続参加認定証)」が診療室内に掲示できることを広く宣伝し事業を拡大させる。

#### ⑪キャラクターの公募

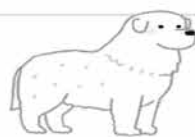
日本獣医師会のキャラクターを広く募集し、キャラクターの利用権を会員（動物病院）に付与する。キャラクターグッズとして携帯ストラップ、ネクタイ、ハンカチなどオリジナル製品の提供や販売等も考える。

#### ⑫認定獣医師制度の拡充

農場管理認定獣医師（牛・豚・鶏）のほかに動物園認定、水族館認定、災害獣医療認定、獣医病理医認定などを検討し拡充する。

## 獣医師会加入のメリット

デメリット



### ⑬新たな学会の創設

日本産業動物、日本小動物獣医学会、日本獣医公衆衛生学会の他に日本基礎獣医学会（仮称）を組織し、大学の基礎系獣医師の活動を活発化させ基礎系の獣医師を確保する。

思いつくままに様々な事を記載しましたが、これら全てが組織率向上に大きく寄与できるものとは考えておりません。また、記載内容もアイディアも未熟で経費も要することから、さらなる検討が必要で日本獣医師会や地方会との調整も必要です。

いずれにせよ、会員となって良かったと思われるきめ細かい対応と対策が必要だと考えています。

その他、地方が抱える地方公務員の待遇改善も公務員獣医師を会員とするため強力に継続して推進すべき事項です。

最後に、獣医師会の入会は任意であり、弁護士のように弁護士会に所属しないと活動ができないわけではありません。また、情報社会のため獣医療の情報はインターネット等で簡単に調べることができるようになり、加入に対するメリットが薄れてきつつあります。

会員の皆さんの中で、組織率向上に向けて良い案がありましたら、お力を貸してください。



### ○青森県獣医師会会員の最新情報

農林水産省から令和6年12月31日現在の届出状況が公表されましたので、令和7年3月31日現在の会員数から組織率を求め掲載しました。人口減少による影響なのか届出数が減少しているため、組織率が5ポイントほど増加しています。

○青森県獣医師会の組織率

(人)

調査年	届出数	会員数 <sup>※1</sup>	組織率 (%) <sup>※3</sup>
令和4年	528	399	75.57
令和6年	493	391	79.31
差	減 35 <sup>※2</sup>	減 8 <sup>※2</sup>	増 3.74

※1 各年翌3月31日現在の会員数

※2 差は、主に公務員獣医師、開業獣医師、大学関係者の届出者減少による

※3 組織率は 会員数 ÷ 届出数 × 100

# イベントリニューアルを通して見えたペンギンの健康へのヒント

青森県営浅虫水族館 加 藤 愛

例年海獣館で開催していたペンギンのお散歩イベントが、リニューアルしました。

今回は、イルカプールでの開催になり青森県らしい「ねぶた囃子」を取り入れたオリジナリティーあるイベントを形にすることができました。イベントの前半はペンギンの生態を紹介し、後半にねぶた囃子にあわせて行進をするという内容です。

ペンギンは鳥の仲間ですが空を飛ぶことはできません。かわりに飛ぶように泳ぐことができます。フリッパーと呼ばれる翼は、平たく1枚の板のようになり、オールのような役割をしています。しっかりと骨が入っており曲げることもできます。ペンギンは、泳ぐ時にこの翼を複雑に曲げることで推進力を得ているのです。泳ぐ時だけではなく、威嚇やパートナーへの求愛をする時などにも使います。人が足や腕などを叩かれると内出血をするほどで、かなり力強いことが分かります。

また、手元カメラでスクリーンに映し出すことで、普段は解説しづらい口の中を紹介することができました。

ペンギンの口の中には歯はありませんが、ギザギザとした突起がたくさんあります。(図1) これは、捕らえた魚を逃しにくくするためのもので、針の返しのような役割をしています。

鳥類でも、ヒナの時「歯」と呼ばれるものを持つ時期があります。これは「卵歯」(らんし)といいます。鳥類の多くは、孵化後数日以内に消失すると言われていますが、フンボルトペンギンのヒナは1ヶ月以上残り、次第に目立たなくなります。上嘴の先にある小さな白斑のようなもので、わずかに突き出しています。(図2) 卵の中から自ら殻を割る時

に、嘴はまだ柔らかいので卵歯が役立つのです。



図1 口の中の突起



図2 卵歯

泳ぐだけでなく、歩くのも得意なペンギン。よちよち歩きが特徴ですが、実は足にもたくさんの秘密があるのです。

ペンギンの足は、とても短く見えますが見えている部分が短だけで身体の中に足の骨が隠れているのです。(図3)

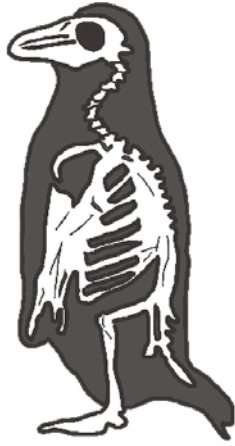


図3 ペンギンの骨格

人間で例えると、つま先立ちで空気椅子をしているような状態になっています。これは、羽毛がない足の部分が短いことで体温が奪われるのを防ぎ、水の抵抗を少なくしたり、内臓を水圧から守ったりするためと言われています。逃げる時や目標物があるとき等は、普段のよちよち歩きとは対照的に、驚くほど速く走ることもあるのです。

ペンギンは群れを作りますが、その中にボスやリーダーはいません。そのかわり、海に飛び込むときや歩き出す時、最初の1羽が動くとその後に続いていきます。海に飛び込む最初の1羽は「ファーストペンギン」と呼ばれています。人間界でも「勇気ある最初の挑戦者」という意味で使われることがあります。ペンギン界のファーストペンギンは、勇気を出して仲間を導いたように見えますが、偶然押し出されて最初の1羽になっただけであり、毎回変わるそうです。

偶然なった「ファーストペンギン」ですが、この1羽はとても重要な役割をしています。この1羽のおかげで、他のペンギンたちは「大丈夫そうだ」と判断し一斉に動き出します。これは、仲間の行動を真似して天敵から身を守ったり、群れからはぐれないようにしたりする習性によるものです。ねぶた囃子での行進では、このような習性を実際に見ていた

だくことができたのではないかと思います。

また、このイベントの開催に向けて場所慣れしていないイルカプールで、お散歩をする練習を重ねました。この練習の成果として、落ち着いてお散歩ができたことだけではなく、ペンギンたちの健康状態にも変化が見られました。

ペンギンの代表的な疾病として「趾瘤症」（しりゅうしょう）が挙げられます。趾瘤症は、体重負荷のバランスが崩れることにより、足裏の循環障害や傷からの細菌感染等によって発症するものです。趾瘤症予防として、当館では水中での投餌を取り入れています。これにより、遊泳時間が増え、趾瘤症発症率が低下しました。巣で過ごす時間が増える換羽期や繁殖期に、初期症状の発症率は上がるものの自然治癒する個体がほとんどです。

飼育個体である「青赤」は2020年より趾瘤症を発症し、同年の治療により病変部位は縮小しましたが、完治することなく経過を観察していました。（図4）

ところが、イルカプールで歩く練習を始めて3週間後のチェック時には、趾瘤症が改善していたのです。（図5）治療を検討していた頃だったため、とても驚きました。詳しい調査はおこなっていないものの、歩行時間の導入が趾瘤症改善につながった可能性があります。今後も歩行時間の導入の継続、水中投餌の他に遊泳時間を伸ばす方法を試行錯誤していき、趾瘤症予防の経過を観察していきます。

よちよちと歩く姿や丸っこい体つきから多くの人に可愛らしい生き物として親しまれているペンギン。しかし、鋭い嘴や口の中、力強い翼、水中に適応した体のしくみからは逞しさを感じられます。

愛らしさと力強さを兼ね備えているペンギンたちの魅力を今後もたくさんの方々に伝えていくと共に、より良い飼育環境を整えていけるよう取り組んでまいります。





図4 「青赤」 左足

右足

(2025年8月31日撮影)

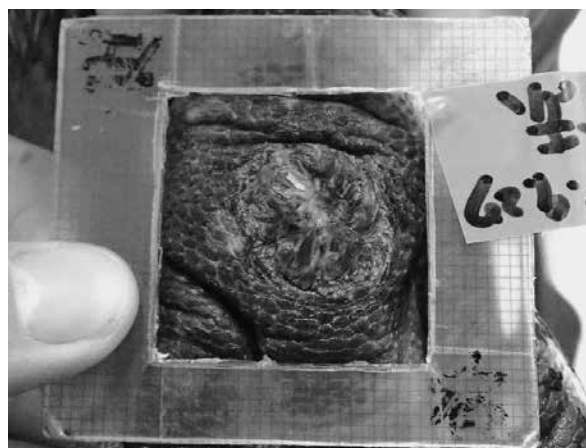


図5 「青赤」 左足

右足

(2025年9月27日撮影)



(ペタペタ ペンギン ねぶた囃子で大行進)

## 性分化疾患が疑われる犬の一例

北里大学獣医学部附属動物病院 小動物診療センター

動物種：イヌ 品種：パグ 初診時年齢：0歳3ヶ月 性別：メスと推定

## ●既往歴と主訴

販売店はメスと推定されるが陰部の形状からオスの可能性もあると説明。飼い主のもとに迎えた後に頻尿、排泄時に力むなどの異常な様子が見られたため近医を受診した。

診察時に頻尿で排尿はしているが排便しづらく痛がる様子が観察されたため、浣腸処置と抗生剤及びステロイドの投薬をした。治療により症状の改善が見られたものの、原因精査のために本学診療センターに紹介来院した。

## ●身体検査所見

包皮様の構造物にペニス様の突起物を認めたが、形状が未熟で低形成であった。睾丸は体表からは確認できなかった。

また、CT検査時に全身麻酔下にて確認した際に尿道口をペニス様の突起物の尾腹側に位置する包皮の裏側に確認した。

## ●尿検査

## ・CT検査時の検査（第389病日）

pH:6.8, 尿SG:1.034, 蛋白:+, 30mg/dL,

糖:-, ケトン体:-,

潜血:-, WBC:-, Bil:+, URO:0.1

尿沈渣:顆粒円柱:1~10/hpf, 結晶なし

## ・膀胱炎及び尿石症確認時の検査（第646病日）

pH:7.8, 尿SG:1.028, 蛋白:2+, 100mg/dL,

糖:-, ケトン体:-,

潜血:+, 非溶血, WBC:±, Bil:+, URO:0.1

尿沈渣:ブドウ球菌, ストルバイト結晶

## ●CT検査所見

腹部水平断面（図1）では、膀胱近傍に子宮様の臓器（図1、赤矢印）を確認した。



図1

## ●摘出した臓器と病理検査

膀胱の側方に子宮様の管状臓器が走行していた（図2）。尾側では盲端になっており、腔に相当する部位は確認できなかった。一方で頭側では卵巣に相当する位置に精巣様の臓器を認めた。

摘出した臓器の病理検査（図3）では両側の生殖腺には精巣構造が確認され、精細管はいずれもびまん性の萎縮を示し、セルトリ細胞のみで内張りされていた。周囲には精巣上体も認められた。また、生殖腺周囲の管状構造には精管様構造と子宮様構造が並走して存在していた。精子形成は認められなかったものの、精細管構造自体は形成されていたことから、本症例は 46, XY 性分化疾患の可能性が高いと考えられた。



図2

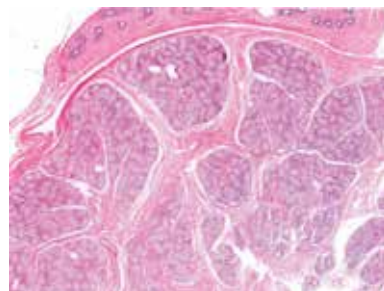


図3

## ●診断：46, XY 性分化疾患（Disorders of Sex Development: DSD）

### ●ノート

第646病日において膀胱炎に伴うストルバイト結晶による尿閉が確認された。レントゲン検査で膀胱内に複数の結石を認めた(図4)ため、入院の上で食事管理と抗生剤投薬および膀胱洗浄を実施した。しかし度々尿閉を繰り返したため第648病日に膀胱切開術を行い、結石を摘出した(図5)。

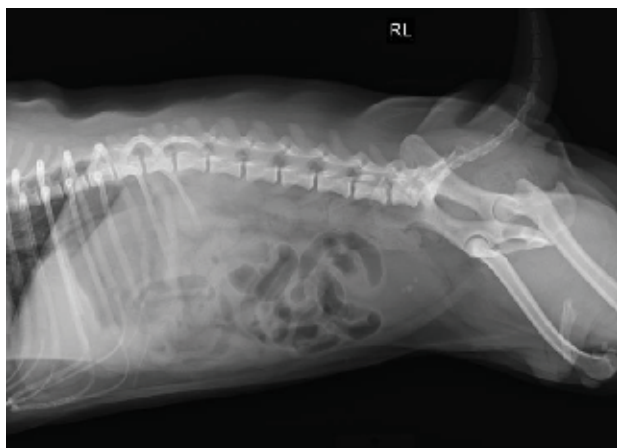


図4



図5

本症例は、CT撮影時(第389病日)に全身麻酔下にて外陰部の形成不全と尿道口が包皮内側に存在するという解剖学的異常を確認しており、排尿するたびに尿は包皮内に排泄されているという構造的問題が存在していた。同日の尿検査・沈渣はともに大きな異常は認められなかったが、第646病日の膀胱炎および膀胱結石確認時の検査では尿中にストルバイト結晶と細菌感染および尿蛋白の増加を確認しており、この間の257日で膀胱内の状態は急速に悪化したと言える。また、第648病日の膀胱切開の術中所見では膀胱壁は明らかに肥厚し、慢性炎症に伴う線維化の急激な進行が疑われた。近医受診時に観察されたという排尿と排便時に確認された疼痛は抗生剤とステロイドの投与によって一時的に改善していたものの、この時点でも膀胱炎を起こしていた可能性は高く、慢性化したと考えられる。

ヒト医療では“半陰陽”という用語はネガティブな意味合いが強く、性分化疾患（DSD）という表現を使用しており、獣医療においてもDSDと表記することが推奨されている。本症例は病理診断の結果これまで雄性半陰陽と呼ばれていた 46, XY 性分化疾患と考えられる。しかし染色体診断を行っておらず、厳密にはその可能性が高いというレベルに留まる。特に、精巣構造を認めると同時に子宮体のような構造が認められたことから胎児期に抗ミュー管ホルモン（AMH）の作用が不十分であったために、女性の内性器である子宮様構造が残った持続性ミュー管症候群と推察された。DSDでは、生殖器形態の異常に加えて尿道の走行異常や位置異常などの外陰部の形成不全を伴うことは少なくなく、尿の停滞や外部環境からの細菌侵入により尿路感染や結石形成を高率に引き起こす環境がしやすいと言える。したがって、尿路構造の明確な破綻がない場合でも、機能的障害が進行している可能性があり、尿路の機能や状態の詳細な評価が不可欠である。

本症例において、尿路感染やそれに伴う結石形成のリスクが高い状態であったにもかかわらず、予防的アプローチを早期に行わなかったことは反省するべきである。尿路における感染や結石の予防を検討するタイミングが遅れたために飼い主の負担が増えた可能性は否定できない。そのため、今後はDSDによる尿路構造異常の疑いがある症例においては解剖的異常のみならず、機能的異常についても詳細に評価し、感染や結石形成の予防を含めたアプローチを早期に検討することで治療の安全性と有効性を高めることができると考える。



# ホルモン測定により繁殖診断を行った 小型馬の2例について

通常の直腸検査や経直腸超音波診断が困難な小型馬は、血中ホルモン（エストラジオール；E2、プロジェステロン；P4）検査による繁殖診断が選択肢となる。遠隔地から大学へクール宅配便輸送した検体（血清）をホルモン測定して行った繁殖診断2例について紹介する。

## 1・小型ポニー 5歳以上

稟告：前年度に交配した。5月に妊娠診断と、可能なら分娩時期を予測したいという依頼があったため、採血して血清を大学へ輸送し、ホルモン濃度を測定した。測定は5/19と5/29の2回行われた。

### 5/19 測定1回目

E2 657 pg/ml

P4 20 ng/ml 以上

この結果から妊娠陽性であり、①分娩直前 ②妊娠約150-280日 のどちらかと推定されたが、動物の状況から現地獣医師が後者と診断した。

### 5/29 測定2回目

E2 649 pg/ml

E2濃度に変化はなく、前回と同じく妊娠状況と診断された。

その後6/30に正常分娩したため、それぞれ分娩前42日、32日に測定していたことになる。

考察：ホルモン測定により妊娠を診断できたが、P4、E2とも文献値よりも高く、またE2の変動を観察できなかった。馬妊娠時はP4、E2抗体と交差する別のホルモンが分泌されるため、測定結果はそれを踏まえて評価する必要がある。

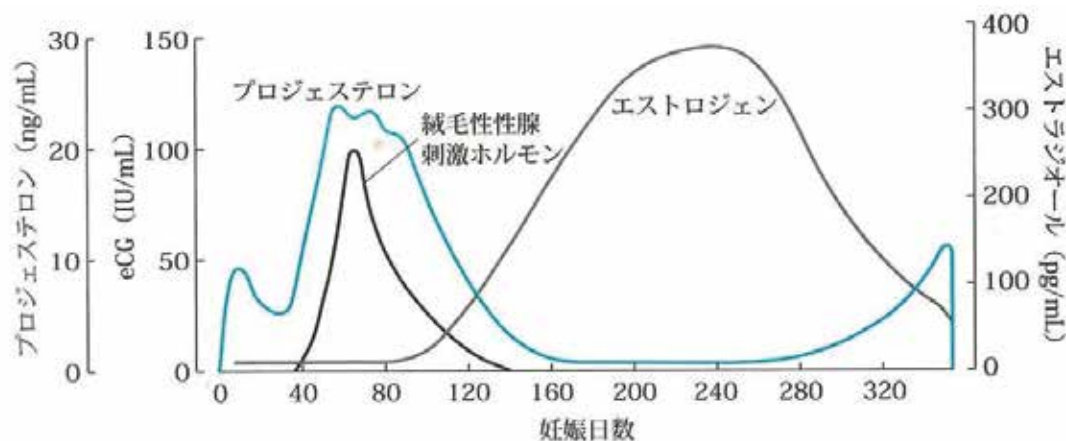
## 解説 1・妊娠馬の血中ジェスタージェンについて

馬の妊娠期後半には、ジェスタージェンとしてP4ではなく $5\alpha$ プレグナン類が血中に分泌され、抗P4抗体と交差して低値で検出される。分娩20-30日前から上昇し、約48時間前にピークに達するとされ、理論上は分娩日が予測できるはずだが、今回は1回目の測定で検出上限より高かったため、指標にできなかった。分娩42日前にあたるこの時期に文献値よりかなり高い濃度を示した理由は不明である。



## 解説2・妊娠馬の血中エストロジェンについて

馬の妊娠後半には、エクイリンやエクイレニンなど、E2以外のエストロジェンが分泌され、抗E2抗体と交差して検出される可能性がある。これらは妊娠後の100日で低下するが、E2濃度は一定であり、分娩24-48時間前に2倍になると文献には記述されている。E2値が2回とも高く、変動しなかったため、その時点で分娩までまだ100日以上あるのではと考えたが、実際には2回目測定の32日後に正常分娩し、分娩時期の予測はできなかった。



妊娠馬の血中ホルモン濃度の変化。

図：獣医繁殖学 第5版 157p

## 2・小型ポニー 4歳

稟告：4/20、21に交配を行い、その後当て馬を試みたが拒絶して暴れるため、当て馬以外の方法で妊娠診断を行いたいと依頼。現地獣医師と相談し、交配3周期目の66日目にあたる6/25から3日間の血清を大学へ送付し、P4を測定した。

6/25  
0.3 ng/ml 以下

6/26  
0.4 ng/ml

6/27  
3.3 ng/ml

周期性が観察されたため**非妊娠**と診断し、**6/25を排卵日**、その21日目の**7/16を排卵予定日**に設定して交配することができた。次周期では当て馬を拒絶したため、受胎したことを期待して経過を観察している。

考察：この場合最も合理的な妊娠鑑定法は馬絨毛性性腺刺激ホルモン（eCG）測定であるが、本学動物病院はその設備がないため、連続採血によりP4の周期性を確認した。3日間の連続採血により運よく排卵日を検出できたため交配できたが、この方法で確実に妊娠診断や排卵日予測を行うためには周期性の有無を確認する必要があり、最大で21日間連続して採血・測定しなければならない。

まとめ：クール宅配便で輸送した検体のE2とP4の測定によって遠隔地の小型馬の妊娠および発情診断を行った。しかし今回測定した小型馬のホルモン動態は文献のデータと異なる点があり、分娩日予測など正確な診断のためには、現地獣医師の協力とさらなる研究が必要である。

参考文献：獣医繁殖学 第5版 157-158、167p

## 令和7年度青森県獣医師会ゴルフコンペの結果について ～ 南 勲さん優勝！ ～

青森支部 沼宮内 春 雄

令和7年9月18日（木曜日）、“十和田湖高原ゴルフクラブ”において「令和7年度青森県獣医師会ゴルフコンペ」が開催され、三八支部獣医師会会員の南勲（みなみ いさお）さんが見事優勝されました。

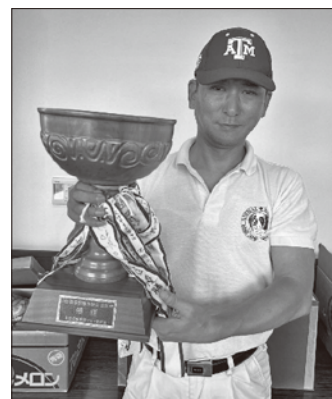
昨年度は、9月22日（日曜日）にゴルフコンペの開催を予定していましたが、秋雨前線と温帯低気圧の影響による大雨で中止に追い込まれました。そのため、今大会は2年ぶりの開催となります。今年も前日からの雨で開催が危ぶまれましたが、スタート当初の小雨模様から次第に好天に恵まれ晴天の下、快適なプレーを楽しむことができました。

参加者は会員とその家族や知人16名で、ダブルペリア方式の打数制限なしでコンペが開催されました。日頃の練習成果と2年ぶりの交流を深めながら、優勝（点数でなく8位）とニアピン・ドラ短・ブービー及び何打でもニアピン賞などの賞を目指しました。その結果、初参加の南勲さんが見事に優勝し、

優勝カップと副賞としてダンボール箱いっぱいの果物と野菜を受領しました。また、アトラクションの受賞者はそれぞれ笑顔で賞品を頂き、来年の再会を約束しながら散会しました。

来年度も秋頃に“みちのく国際ゴルフ倶楽部”において、盛大にコンペを開催する予定です。事前に青森県獣医師会会報誌に開催のご案内をしますので、

参加を希望する会員の皆様は、ご友人の方々などを誘って気軽にプレーしてみませんか。



青森県獣医師会長杯を手にした  
優勝者の南さん

## ゴルフのはじまり

ゴルフの歴史は、15世紀のスコットランドにさかのぼります。羊飼達が杖で石を打ち、自然の地形を利用して遊んでいたのが、現在のゴルフの原型とされています。（諸説あり。）

やがてこの遊びは貴族たちの間で人気を集め、王族も夢中になりました。特にスコットランド王ジェームズ4世は熱心なゴルファーで、ゴルフクラブを注文した記録も残っています。

しかし、当時のスコットランドでは戦争の準備が優先されていたため、ゴルフが兵士の訓練を妨げるとして、1457

年に禁止されました。

それでも人々のゴルフへの情熱は冷めず、最終的には国王自らがその禁止を解き、ゴルフは再び広まったそうです。

18ホール制が定着したのは、セント・アンドリュース・リンクスというコースがきっかけです。もともと22ホールあったこのコースが1764年に改修し、現在の18ホールに統一されたことで、世界中のゴルフコースの標準となったそうです。



# 子供達の料理チャレンジ記録

## 食いしん坊かあちゃん

私は、3人の小学生を育てながら、家畜保健衛生所の獣医師として働いています。自宅近くに住む義両親の多大なる協力のおかげで、幸いなことに、毎日不便を感じることなく仕事を続けられています。中でも、月曜日から木曜日までの放課後の子供の世話と夕食を作っていただいている事が最もありがたく、感謝しているところです。ただ、次の日が休みの金曜日だけは、何とか頑張ろう！と自ら夕食を作っていました。

しかし、今年の夏頃、子供達が習い事を辞めたことをきっかけに、毎週金曜日に子供達による夕食作りを始めたので、そのレシピと結果と考察をまとめたのでご紹介します。

なお、親が不在の状況で子供が大きな事故なく作れるよう、電子レンジ調理を基本としたレシピとなっています。

### ○豚肉ともやしのミルフィーユ

（レシピ）耐熱皿にもやしと豚肉を交互に重ね、ラップをしてレンジで10分間加熱。

（結果）材料を並べ、レンジで10分加熱していたが、ラップをかけ忘れたため、加熱不十分だった。

（考察）休日に事前練習したため、並べるのは上手にできた。ラップをかけることを口頭では伝えたが、レシピに書かなかったことが原因で失敗したと考えられた。

### ○グリーンサラダ①

（レシピ）レタスをちぎり、洗ってサラダスピナーで水切り。皿にレタス、千切りキャベツ（市販）、洗ったトマト、切ったキュウリを乗せる。

（結果）ちぎったキャベツと洗ったトマト、切ったきゅうりのサラダとなった。

（考察）作成者はレタスとキャベツの区別がついていなかったことが原因で失敗したと考えられた。紙にレシピを書いたが、複雑なレシピは読まない可能性があると考えられた。

### ○グリーンサラダ②

（レシピ）レタスをちぎり、洗ってサラダスピナーで水切り。皿にレタス、洗ったトマト、切ったキュウリを乗せる。

（結果）レシピ通りに作ることに成功した。

（考察）グリーンサラダ①より、簡単な材料にしたため、よい結果につながった。キュウリのスライスが厚めだったので、今後は切る練習が必要と考えられた。

### ○タンドリー風チキン

（レシピ）ヨーグルトとカレー粉等を混ぜた調味液で仕込み済みの鶏肉を天板にならべ、電子レンジのグリルで12分加熱。

（結果）生焼けだった。

（考察）作成者はレシピどおりに料理したが、加熱時間が短かった。焼き加減を見て、再加熱する判断力を育てたいが、当面は事前に全く同じ方法で試作する等の対応が必要と考えられた。

### ○キュウリの梅塩昆布和え

（レシピ）キュウリをスライスし、軽く塩もみしたあと、塩昆布（適量）と梅干し（適量）と和える。

（結果）美味しかった。しかし、キュウリを1本しか使わなかったため、量が足りなかった。

（考察）以前に食べたことのある料理のため、味付けは上手にできたと考えられた。今後は人数分作ることができるよう、量の記載も必要と考えられた。



### ○電子レンジで作るカレー

（レシピ）豚肉、にんじん、ジャガイモを一口大に切った後、電子レンジで加熱。水とルーを加えさらに加熱。

（結果）ルーと間違えてレトルトカレーを投入しようとした（ギリギリのところで気づいて制止）。完成したカレーは美味しかった。

（考察）カレールーとレトルトカレーの区別をつける良い機会になった。

### ○巻かないロールキャベツ（図1）

（事前準備）キャベツの内側の葉をくりぬき、みじん切りにする。外側の葉を10枚程度はがしておく。

（レシピ）みじん切りにしたキャベツをひき肉と塩と混ぜる。炊飯器の壁に沿ってキャベツの外側の葉を並べ、中にひき肉を詰め、コンソメ、水を加え通常炊飯する。

（結果）レシピ通りに作ることに成功した。

（考察）事前準備をしたため、戸惑うことなく作ることができたと考えられた。キャベツのみじん切りを自分でやりたいとのことだったので、次回は任せることとした。



図1 巻かないロールキャベツ

### ○ピーマンの塩昆布和え

（レシピ）ピーマン1袋を細切りにし、軽く塩を

振ってからレンジで2分加熱。塩昆布とごま油を適量かける。

（結果）ピーマンと卵の炒め物（図2）が完成した。

（考察）塩昆布が見つからなかったため、卵炒めに変更したようで、美味しくできていた。親不在時にコンロを使わないよう指示していたが、守れなかったことが大きな反省点と考えられた。



図2 ピーマンと卵の炒め物

夕方5時から作り始めたはずなのに、6時半に帰宅したら、サラダしかできていなかったり、台所の床やシンクが大惨事になっていたり、上手いかないことはたくさんありますが、子供は楽しんで料理に取り組んでおり、これからも続けていきたいと思っています。

今後は、様子を見つつ、コンロを使った料理にも挑戦させ、作れる料理を増やしていき、どんどん自立して欲しいと思います。





## ◎会員の動向

## (1) 会員数（正会員） (人)

令和6 年度末	令和7年度		令和7年 12月13日 現在
	入 会	退 会	
391	7	16	382

## (2) 支部別正会員数 (人)

青 森	弘 前	三 八	西 北	上十三	下 北	計
52	27	110	27	145	21	382
5	0	3	1	8	2	19

(下段は名誉会員数で内数)

## (3) 入会会員

支 部	氏 名	所属（勤務先等）
上十三	杉内 美咲	北里大学大学院
	三枝 正彦	サエグサ家畜診療所

## (4) 退会会員

支 部	氏 名	退会年月日
弘 前	三五 精司	令和7年10月10日
上十三	宗像 巧	令和7年10月31日

## (5) 逝去会員

支 部	氏 名	逝去年月日	年齢
三 八	山内 正孝	令和7年11月26日	74歳
上十三	成田 浩志	令和7年12月4日	79歳

## (6) 賛助会員

会員数	1
名 称	株式会社クレディセゾン

## ◎事務日誌

## 1 事務関係

## (1) 青森市役所立入検査

期日：令和7年11月19日（水）  
場所：青森市 青森支部事務室（獣医師会館内）  
参集：青森市狂犬病担当職員  
出席：青森支部事務員、事務局長

## (2) 令和7年度中間監査

期日：令和7年11月20日（木）  
場所：十和田市 食鳥検査センター  
参集：監事、税理士法人事務所担当  
内容：令和7年4月～9月中間監査  
出席：会長、事務局長、事務局次長、事務局

センター所長ほか

## (3) 令和7年度第5回理事会

期日：令和7年12月12日（金）  
場所：青森市 青森県獣医師会館  
参集：理事・監事役員  
内容：令和7年度中間監査、世界獣医師会大会への参加等について  
出席：事務局長、事務局次長、事務局

## 2 食鳥検査事業関係

## (1) 令和7年度全国食鳥指定検査機関情報連絡会議

期日：令和7年10月30日（木）  
場所：徳島市 徳島グランヴィリオホテル  
内容：永年勤続表彰、提出課題、研究発表  
参集：厚生労働省、徳島県、徳島県獣医師会14指定検査機関事務局等  
出席：会長、センター所長、主任検査員  
事務局長、事務局次長ほか

## (2) 八戸市役所食鳥検査事業委託に係る打合せ

期日：令和7年11月25日（火）  
場所：十和田市 食鳥検査センター  
内容：処理場移転に伴う検査業務の委託  
出席：八戸市役所担当職員、センター所長  
事務局長、事務局次長

## (3) 令和7年度第4回特定事業運営委員会

期日：令和7年12月8日（月）  
場所：青森市 青森県獣医師会館  
内容：令和7年度中間監査、報告事項等  
出席：各委員、センター所長、事務局長ほか

## 3 狂犬病予防・動物愛護関係事業

## (1) 令和7年度狂犬病予防注射打合せ会議

期日：令和7年12月11日（木）  
場所：つがる市 柏ロマン荘  
内容：狂犬病予防注射接種実績、次年度対策等  
参集：西北支部管内市町村担当者、西北支部狂犬病予防注射従事獣医師、事務局  
出席：事務局長ほか

## (2) 令和7年度下北地域狂犬病予防注射関係機関会議

期日：令和7年12月18日（木）  
場所：むつ市 プラザホテルむつ  
内容：狂犬病予防注射接種実績、次年度対策等  
参集：下北支部管内市町村担当者、下北支部狂

犬病予防注射従事獣医師、事務局  
出席：事務局長ほか

#### 4 部会開催関係

- (1) 会報部会  
期日：令和7年12月1日（月）、12月15日（月）  
場所：青森市 青森県獣医師会館  
内容：令和8年1月発行・第205号会報編集  
出席：会報部会委員、事務局

#### 5 東北獣医師会連合会関係

- (1) 令和7年度東北地区獣医師大会  
期日：令和7年10月8日（水）  
場所：秋田市 秋田キャッスルホテル  
参集：東北各県・市獣医師会長、副会長  
東北獣医師会事務局長、事務局  
日本獣医師会副会長、専務理事ほか  
出席：会長、副会長、事務局長、事務局
- (2) 令和7年度獣医学術東北地区学会  
期日：令和7年10月9日（木）  
場所：秋田市 秋田キャッスルホテル  
参集：東北各県発表者、獣医師会事務局  
関係業者、秋田県獣医師会事務局  
出席：会長、副会長、事務局次長、事務局
- (3) 令和7年度北海道・東北地区獣医師会事務局  
会議  
期日：令和7年10月23日（木）～24日（金）  
場所：札幌市 ホテルアスペン札幌（23日）  
北海道大学獣医学部（24日）  
参集：日本獣医師会事務職員、東北獣医師会事務  
局長・事務局、北海道獣医師会事務局  
内容：食鳥検査事業、大会学会開催概要、各県  
の課題、日本獣医師会からの情報提供  
出席：事務局次長、事務局

#### 6 日本獣医師会関係

- (1) 令和7年度全国獣医師会会長会議  
期日：令和7年11月14日（金）  
場所：東京都 明治記念館  
参集：日獣会長、副会長、事務局長、次長  
全国獣医師会会長、常務理事ほか  
出席：会長、事務局長
- (2) 2025動物感謝デー  
in JAPAN “World Veterinary Day”  
期日：令和7年11月15日（土）  
場所：東京都 上野恩賜公園  
参集：日獣会長、副会長、事務局長、次長  
東北各県・市獣医師会職員ほか

出席：会長、事務局長、事務局次長、事務局

(3) 令和7年度第5回理事会  
期日：令和7年12月10日（水）  
場所：日獣会議室・Web会議  
参集：藏内会長ほか役員、日獣事務局長ほか  
出席：会長

#### 7 その他

- (1) 高病原性鳥インフルエンザに係る防疫対策会議  
期日：令和7年10月27日（月）  
場所：青森市 青森県庁北棟会議室  
出席：事務局長、事務局次長
- (2) 東北地区獣医師会会長意見交換会  
期日：令和7年11月6日（木）～7日（金）  
場所：秋田市 ANAクラウンプラザホテル秋田（6日）  
秋田県動物愛護センター（7日）  
出席：会長
- (3) 国スポ第5回馬術競技運営専門委員会  
期日：令和7年11月7日（金）  
場所：山梨県 山梨県馬術競技場本部棟  
出席：事務局長
- (4) 令和7年度青森県褒賞授与式  
期日：令和7年11月26日（水）  
場所：青森市 ホテル青森  
出席：会長

#### 8 支部関係

- (1) 青森・西北支部支部獣医師会  
令和7年度大動物講習会  
期日：令和7年11月27日（木）  
場所：五所川原市 五所川原市民学習情報センター
- (2) 三八支部獣医師会  
令和7年度大動物講習会  
期日：令和7年10月18日（土）  
場所：八戸市 八戸プラザホテル  
令和7年度小動物講習会  
期日：令和7年11月9日（日）  
場所：八戸市 八戸プラザホテル
- (3) 上十三支部獣医師会  
令和7年度食肉衛生技術研修会  
期日：令和7年11月8日（土）  
場所：十和田市 北里大学獣医学部  
令和7年度肉用牛畜産講習会  
期日：令和7年12月15日（月）  
場所：十和田市 十和田商工会議所ほか

令和7年の秋の叙勲・褒賞で本会会員の小山田久氏と本会会長の小山田富弥氏が表彰されました（詳細は本会報参照）。長年のご労苦と社会貢献が評価されたもので、心から御祝い申し上げます。両氏の益々のご活躍を祈念いたしております。

我々会員も獣医師という社会的な責務に対して、改めて身の引き締まる思いです。

一方、昨年末には本会前会長の山内正孝氏、更には元本会理事の成田浩志氏の訃報も飛び込んで来ました。長年の間、本会の舵取りをしていただきありがとうございました。（合掌）

年の末に嬉しいことと悲しいことが一気に押し寄

せて来ました。

今年の干支である「午」年には、どんな新しい出会いがあるのでしょうか？皆様にとって良い年でありますように！

（A.N）



## 原 稿 募 集

令和8年7月1日発行予定の会報第206号の原稿を募集いたします。

会員各位の投稿のほか、各支部獣医師会だよりの原稿もお願いいたします。

原稿は、次の方法で青森県獣医師会にお送りください。

締め切りは令和8年5月22日（金）です。期日までにお願いいたします。

### 〔原稿の提出方法〕

原稿は原則としてMicrosoft Wordで2段組み、23字×37行で作成し、ファイルは電子メールに添付して本会事務局に送信してください。なお、原稿ファイルがWord以外で作成された場合は、使用したソフトをお知らせください。

手書きの原稿や、大容量（20MB以上）の写真を含む原稿ファイルはCD-R等に記録し、本会事務局に郵送してください。

本会事務局住所：〒030-0813 青森市松原二丁目8の2

電子メールアドレス：ao-vet@smile.ocn.ne.jp

# あなたの暮らしを まるごと守る



© JAPAN-DA

## THE

損保ジャパンの個人向け商品

「THE( ザ )」シリーズ

お客さまの生活に寄り添い、

一番の安心を提供できる保険をお届けするために、

暮らしの安心を 360 度カバーする、

頼れるラインアップでお客さまをお守りします。



THE  クルマの  
保険



THE  カラダの  
保険



THE  すまいの  
保険

損害保険ジャパン株式会社 青森支店 青森支社  
〒030-0801 青森県青森市新町1-1-14  
<https://www.sompo-japan.co.jp/>

株式会社青い森保険企画

〒030-0843 青森県青森市浜田2-6-15

Tel:017-739-6583 <https://aoimorihokenkikaku.com>

損保ジャパン



地方獣医師会の  
会員獣医師の皆さまへ

クレーム行為にお悩みの獣医師の皆さまには  
強い味方がついてます!

獣医師賠償責任保険に自動付帯

# クレーム対応相談サービス をご活用ください!!

もし

クレーム行為※により  
診療が阻害されたら...

※クレーム行為とは、記名被保険者が日本国内で行った業務に対して、他人が被保険者(保険の補償を受けられる方)に暴行、脅迫、威力、セクシャルハラスメント、不退去、偽計、風説の流布を行うことをいいます。

もし

SNS(GoogleクチコミやTwitter)に獣医師や動物病院の名誉を毀損するような悪質な書き込みをされたら...

もし

リスクを十分に説明して行った手術で、ミスはなかったのに、「勝手な処置をされた」「するべき治療をしなかった」とクレームを受けたら...



こういう場合に、お気軽にご相談することができます!!  
多くの会員獣医師の皆さまにご利用いただいています。

## 専門相談窓口への無料相談サービス

[受付時間]

平日の午前10時～午後6時

クレームコンシェルとは、クレーム行為に関するご相談窓口です。

クレームコンシェルサポートメンバーがクレームに関するご相談に対し、応対方法など解決に向けた各種アドバイスを実施し、クレームの速やかな解決を支援します。

※ご利用は本保険の被保険者のみとなります。

クレーム対応  
無料相談サービス  
の使い方

加入者証に記載の相談ダイヤルへお電話ください!!  
(受付時間: 平日午前10時～午後6時)

### 保険契約者 公益社団法人 日本獣医師会

このご案内は概要です。詳しい内容につきましてはパンフレットをご請求いただき、取扱代理店または損保ジャパン営業店までお問い合わせください。

#### 問い合わせ先

幹事代理店 株式会社安田システムサービス

〒163-1529 東京都新宿区西新宿1-6-1  
新宿エルタワー29F  
TEL:03(3340)6497 FAX:03(3340)5700  
受付時間 9:00～17:30(土・日・祝休)

引受保険会社 損害保険ジャパン株式会社

団体・公務開発部第二課  
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1  
TEL:03-3349-5402 FAX:03-6388-0161  
受付時間 9:00～17:00(土・日・祝休)

日本獣医師会福祉共済事業各保険の資料は下記幹事代理店までご請求ください。  
なお、携帯電話からもご請求いただけます。右のQRコードからアクセスしてください。



SJ22-17544(2023.3.13)

# YES! we do

動物のこと考えてます。



私達は動物用医薬品の供給により

動物・ペットの様々な病気を癒すサポートをし、

さらにそれが人々の心の癒しとなることを願います！

## 株式会社 アグロジャパン

本社・〒950-0134 新潟県新潟市江南区曙町5丁目1番3号

北東北営業部 青森チーム TEL・0176-23-7231 FAX・0176-24-0290

### 明治アニマルヘルスは 狂犬病の予防啓発に取り組んでいます。

meiji

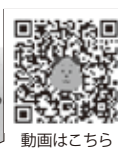
飼い主の皆さまへ向けて



リーフレット  
「狂犬病について考えてみよう」



アニメーション「狂犬病ワクチンを注射しましょう」



動画はこちら

※本剤は獣医師等の処方箋・指示により使用すべき要指示医薬品です。ご使用の際は製品の添付文書をよくお読みください。

明治アニマルヘルス株式会社  
熊本市北区大窪一丁目6番1号





—— 今までもこれからも「生命の未来」のために尽くしたい ——

獣医師・畜産用医薬品, ワクチン類, 器具機材, プレミックス製造販売総合商社

# **小田島商事株式会社**

本社 岩手県花巻市卸町66番地 0198 (26) 4151

## ◆ 営業所一覧 ◆

花巻営業所	0198 (26) 4700	山形営業所	023 (633) 5333
大船渡営業所	0192 (26) 4740	酒田出張所	0234 (26) 4666
大館営業所	0186 (43) 1609	福島営業所	024 (553) 6678
横手営業所	0182 (33) 5404	新潟駐在所	0254 (23) 7567
青森営業所	017 (738) 1224	旭川営業所	0166 (46) 0270
八戸営業所	0178 (34) 2284	札幌営業所	011 (813) 1300
古川営業所	0229 (26) 4567	帯広営業所	0155 (25) 8661
		釧路出張所	0154 (31) 5575
プレミックス工場	0198 (26) 4726	家畜衛生食品検査センター	0198 (26) 5375





Gazing at the future



**ZENOAQ**

動物の価値を高めること。  
それが、私たちの使命です。

 **日本全薬工業株式会社**  
ZENOAQ 福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1

[www.zenoaq.com](http://www.zenoaq.com) 



  
メディavalグループ

**動物の健康はヒトの健康につながる**

- 動物用医薬品販売の全国ネットワークを駆使し、あらゆる動物の健康を守ります。
- 安全な畜水産物の生産をサポートし、食の安全・安心と自給率の向上に貢献できる会社を目指します。

 **MPアグロ株式会社**

本社 〒061-1274 北海道北広島市大曲工業団地6丁目2番地13  
TEL 011(376)3860 FAX 011(376)2600  
<http://www.mpagro.co.jp/>

東北営業部 青森支店 TEL 0178-20-2011 FAX 0120-446902

事業所一覧  
東京本部・岡山オフィス・福岡オフィス  
札幌・旭川・北見・帯広・釧路・函館・青森・秋田・盛岡・山形・仙台・東京・北関東  
大阪第一・大阪第二・兵庫・岡山・広島・山口・鳥取・島根  
高松・徳島・松山・宇和島  
福岡第一・福岡第二・熊本・宮崎・鹿児島・鹿屋  
AHSC(アニマルヘルスサポートセンター)  
MPアグロ  
札幌・帯広・盛岡・関東・御津・各物流センター





## 第21回 アジア獣医師会連合 (FAVA) 大会

# アジアワンヘルス福岡宣言 2022

ワンヘルスは、動物と人の共生社会づくり、生物多様性や環境の保全などによって、地球や社会の持続的な発展を目指している。

現在、世界では、COVID-19、新型インフルエンザ、重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) など人と動物の共通・新興感染症の国境を越えた発生や、薬剤耐性 (AMR) が大きな課題となっている。

このようなことから、FAVA 加盟国は、連携・協力してワンヘルスを実践しなければならない。

我々 FAVA 加盟獣医師会及び所属する獣医師は、ワンヘルスの先進地である福岡県において開催された第21回 アジア獣医師会連合 (FAVA) 大会の成果を踏まえ、「FAVA 戦略プラン 2021-2025」に基づくワンヘルスアプローチを一層発展させ、その実践活動をアジア・オセアニア地域から世界に向けて発信することを決意し、以下のとおり宣言する。

1. 新興・再興感染症を含む人と動物の共通感染症の予防及びまん延防止に万全を期するため、感染源、感染経路及び宿主対策についての調査・研究体制を整備するとともに、情報の共有に努める。
2. 薬剤耐性菌が医療と獣医療において重大な脅威となっていることから、抗菌剤の慎重かつ適正な使用を徹底し、薬剤耐性 (AMR) 対策を推進する。
3. 動物と人が共生する社会を構築するため、生物多様性の維持や地球環境の保全を積極的に推進する。
4. 獣医学教育の更なる整備及びワンヘルスアプローチによる国際連携により、WOAH (OIE) Day One Competencies (獣医師が具備すべき知識・技能・態度) を有する獣医師の育成に取り組む。
5. 医療関係団体、行政機関、市民団体及び大学、WVA、WOAH (OIE)、WHO、FAO、UNEP などの国際機関と協力し、ワンヘルスの課題解決と推進に取り組む。
6. アジアにおけるワンヘルスの課題への研究と児童、生徒及び市民に対するワンヘルス教育の普及のために、FAVA 活動の拠点を整備・強化する。



令和4年11月13日 ヒルトン福岡シーホークにて開催された「第21回 アジア獣医師会連合 (FAVA) 大会」にて調印。



日本獣医師会・獣医師倫理綱領

## 獣医師の誓い — 95 年宣言

人類は、地球の環境を保全し、他の生物と調和を図る責任をもっている。特に獣医師は、動物の健康に責任を有するとともに、人の健康についても密接に関わる役割を担っており、人と動物が共存できる環境を築く立場にある。

獣医師は、また、人々がうるおいのある豊かな生活を楽しむことができるよう、広範多岐にわたる専門領域において、社会の要請に積極的に応えていく必要がある。

獣医師は、このような重大な社会的使命を果たすことを誇りとし、自らの生活をも心豊かにすることができるよう、高い見識と厳正な態度で職務を遂行しなければならない。

以上の理念のもとに、私たち獣医師は、次のことを誓う。

- 1 動物の生命を尊重し、その健康と福祉に指導的な役割を果たすとともに、人の健康と福祉の増進に努める。
- 2 人と動物の絆（ヒューマン・アニマル・ボンド）を確立するとともに、平和な社会の発展と環境の保全に努める。
- 3 良識ある社会人としての人格と教養を一層高めて、専門職としてふさわしい言動を心がける。
- 4 獣医学の最新の知識の吸収と技術の研鑽、普及に励み、関連科学との交流を推進する。
- 5 相互の連携と協調を密にし、国際交流を推進して世界の獣医界の発展に努める。



令和8年1月1日

発行所 青森市松原二丁目8の2

公益社団法人 青森県獣医師会

T E L 017(722)5989

F A X 017(722)6010

Email [ao-vet@smile.ocn.ne.jp](mailto:ao-vet@smile.ocn.ne.jp)

印刷所 青森市幸畑松元78

青森コロニー印刷

T E L 017(738)2021

F A X 017(738)6753